

令和3年度（2021年度）
第2回熊本市公民館運営審議会

別冊資料



熊本市公民館

目 次

令和3年度（2021年度）重点事業 実践事例

	ページ
(1) 学習機会（公民館講座）の充実	1
① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施	3
② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施	13
③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施	20
＊ 人権教育・啓発関連「講演会」・「講座」等の実施状況（予定含）	25
(2) 学習成果を生かす環境づくり	31
① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供	33
② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充	35
③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援	42
(3) 世代間交流の促進	47
① 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取り組み	49
② 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催	57
(4) 新しい生活様式に適応した事業の展開	67
① 公民館オンライン講座（動画配信）の実施	69
② デジタルディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と 利用できない人との間に生じる格差）対策を含めた I C T 講座の実施	77
③ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施	

令和3年度(2021年度)重点事業

(Ⅰ) 学習機会

(公民館講座) の充実

- ① 関係課や関係機関(NPO等)と連携した講座の実施
- ② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施
- ③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

学習機会(公民館講座) ①関係課や関係機関(NPO等)と連携した講座の実施 の充実

東部公民館

講座名：おでかけ公民館（SDG s について知ろう）

講師：神田みゆきさん、熊野たまみさん、大下綱紀さん、橋口和典さん、西田紘美さん（SDGsカードゲーム公認ファシリテーター）

場所：各小学校の教室

対象：熊本市立泉ヶ丘小（①小学3年生63名②小学5年生70名）③熊本市立健軍東小（小学5年生45名）④熊本市立画図小学校（小学3年178名）

期日：①令和3年10月19日（火）9:30～10:30 ②令和3年12月7日（火）14:30～16:30 ③令和3年11月5日（金）9:20～11:20 ④令和3年11月24日（水）8:45～12:45 費用：無料

概要

どのようなねらいがあるのか

東部管内の小学校と連携した講座を実施した。「SDG s について知りたい」という思いが各校から寄せられた。どちらも総合的な学習の一環で5年生では環境学習の視点から、3年生では地域学習の視点から子どもたちにSDG s を意識させるきっかけとなる講座を希望されていた。本講座は世の中で起きている課題について知り、「誰一人取り残さない」というSDG s の目標に対して2030SDG s カードゲームを通して、自分にできることを考え、実行しようとする意欲を高めることをねらいとしている。



講師による「SDGsとは」の説明



カードゲーム：自分の目標のクリアを目指す



講座の様子

授業当日、各クラスをZOOMでつなぎ、講師からの導入やルール説明、まとめなどをオンライン配信することで、全クラスが共通の話を聞くことができた。体育館などに一堂に会するのではなく、各々の教室において活動できるため、コロナ禍においても活動を保障できると感じた。

まず初めに「SDGsとはどんなものであるか」の概略、カードゲームのルール説明があった。子どもたちはカードゲームを通して、グループの目標達成のために、試行錯誤する姿が見られた。また、グループ目標を達成するだけでなく、世界の状況を改善するミッションにも目を向けられるよう講師から助言があると、途端に視野が広がったようで、グループ間で協力し世界の状況をよくしようとする姿が見られた。それはまさにSDGsの本質である「誰一人取り残さない」というテーマを、身をもって体験できているようでもあった。

成果と課題

活動後、「経済、社会、環境のことが楽しく学べてよかったです」「人と人とのつながりを大切にしようと思います」「たくさんのお金をもっといても、使わないと意味がないことがわかりました。ちゃんと意味のある使い方をしようと思いました。」「お金を使って、全ての人にきれいな水や病院を作りたいと思いました。」との感想が寄せられた。担任の先生からも給食の残菜が減ったことなどの報告が聞かれ、SDGsと自分の生活を身に付けて考える姿が見られたとの報告があった。

課題としては、授業開始時にZOOMの接続等がうまくいかず、授業時間が短くなるハプニングが起き、講師の先生に大変ご迷惑をおかけした。事前の準備をしっかりとし、時間の確保に努めたい。

講師と一緒に学校を訪れると多くの笑顔と共に歓迎を受けた。活動後、担任の先生方から「子どもたちが嬉しそうでした」との声も聞かれた。コロナ禍において、施設見学等が大きく制限される中、おでかけ公民館講座を活用し、子どもたちに生きた学びを提供できたことはとても大きな意味を持つと感じた。

学習機会(公民館講座) ①関係課や関係機関(NPO等)と連携した講座の実施の充実

託麻公民館

講座名：SDGs×フェアトレード～世代を超えて学び高校生と語るより良い世界の創造～

講師：フェアトレードシティくまもと推進委員会 明石祥子 熊本市教育センター 前田康裕

ファシリテーショングラフィック 熊野たまみ 託麻公民館 社会教育主事 神田みゆき

場所：オンライン(zoom) (収録：熊本市教育センター) 対象：どなたでも

期日：令和3年9月11日(土) 時間：午後1時半～午後3時半 費用：無料

【共催】熊本市公民館・熊本県ユニセフ協会・熊本大学教職大学院

フェアトレードシティくまもと推進委員会・熊本市教育委員会・熊本市教育センター

概要

どのようなねらいがあるのか。

熊本市はアジア初の、世界で1000番目のフェアトレードシティであり、今年10周年を迎えた。その普及を図るため、SDGsとフェアトレードについて学び、今後私たちがどのように行動に移していくかを考える講座を企画した。また、公民館の合同開催とし、関係課とも協力して、色々な団体とも連携して開催した。

【講座】SDGs×フェアトレード 無料

日時 9月11日(土)午後1時半～3時半
場所 オンライン(ZOOM)
演題 SDGs(持続可能な開発目標)とフェアトレードのつながりを知り、自分にできることを考えてみよう！
講師 明石祥子さん(フェアトレードシティくまもと推進委員会)・前田康裕さん(市教育センター)ほか
申込 託麻公民館ホームページ主催講座情報をご確認ください
(託麻公民館 ☎380-8118)




フェアトレードについて学ぶ

月出小学校の6年生が、おでかけ公民館で、SDGsとフェアトレードについて勉強しました。フェアトレードの意味は「公正な取引」。カカオの実を取るために働かされ、学校にも行けずにいる子どもたちの様子が画面に映し出されると、食い入るように見つめていました。子どもたちからは「学校に行かなくて良いなんて、いいなと思っていたけれど、全然そんなことはなかった。」「フェアトレードの商品をお店で探してみたい。」といった意見が出ていました。




(託麻公民館 ☎380-8118)

Kumamoto 2021-22 EduAction 令和3年8月26日

SDGs × フェアトレード
～世代を超えて学び、高校生と語る「よりよい社会」の創造～

日時：2021年9月11日(土)
13時30分～15時30分

場所：Zoomによるミーティング
主催：熊本市公民館
熊本県ユニセフ協会 / ユニセフ熊本SDGs実行委員会
熊本大学教職大学院
共催：フェアトレードシティくまもと推進委員会
協力：熊本市教育委員会
後援：熊本市教育委員会
参加対象：SDGsやフェアトレードに関心のある方
小学生、中学生、高校生、大学生、保護者、教員関係者も参加
参加費：無料(事前登録制)
問い合わせ先：託麻公民館 TEL 096-380-8118





明石祥子
(フェアトレードシティくまもと推進委員会代表)

熊本市はアジア初の、世界で1000番目のフェアトレードシティで、今年10周年を迎えます。また、熊本市はSDGs実装都市でもあります。そこで、フェアトレードくまもと推進委員会代表の明石祥子さんをお迎えし、SDGsとフェアトレードについて学びの機会を創出したいところ。熊本市公民館、ユニセフ熊本SDGs実行委員会、熊本大学教職大学院、熊本県教育センターの協賛とみんなで一緒に開催しようということになり、今回の合同イベントを実現する運びとなりました。これまでにない新しい取り組みです。

前半は世代を超えてみんなでSDGsとフェアトレードについて学びます。後半は「ユニセフ熊本SDGs実行委員会」の事務局スタッフが講師となり、「よりよい社会」の在り方について語り合う会を設けます。このお集まりは、2020年に熊本の高校生たちが立ち上げ、多くの中高生とともに、SDGsを通して世界の現状を知り、活動の輪を広げることを目指して活動しています。

SDGsとフェアトレードのつながりを知り、自分にできることを考えてみましょう。

※ 参加申込み：こくちーず 上記のQRコードまたは、以下のURLを覚えてお申し込みください。
<https://www.kokuchpro.com/event/b3d129cc3d75079ce2a391522fac37bf/>



講座の様子

まず、「世代を超えて学び、高校生と語るより良い世界の創造」と副題をつけ、多様な世代に参加していただくことを意図した。また、講座の構成も「SDGsとは？」からスタートし、フェアトレードとSDGsの関係まで紹介してから、明石さんの現地に足を運んで出会った子どもたちの話や、フェアトレードシティ熊本の歩みを聞いた。後半は、高校生に司会をバトンタッチして、参加者の声を拾ったりしながら参加者相互の交流を図る時間とすることができた。最後に熊本市教育センターの前田先生からもコメントをいただいた。多様な世代に参加していただくことができ、参加総数は160名ほどであった。その後も東部公民館と連携しておでかけ公民館を活用した学校でのフェアトレードの講座を展開し、フェアトレード国際フォーラムでは学生たちの発表の場を作ることにつながった。市政だよりも掲載し、子どもたちの学びの声を広く伝えるようにした。

成果と課題

多様な団体との連携によって、役割分担をしたりすることで、それぞれの強みと特技を生かした講座とすることができた。多様な団体と連携する場合には事前の打ち合わせなどに時間がかかるという課題があるが、一度繋がりができると、次はスムーズに進んでいくと思われる。



SDGsを学びました！

泉ヶ丘・画図小学校の3年生、泉ヶ丘・健軍東小学校の5年生は、おでかけ公民館を活用して、SDGs(持続可能な開発目標)について学びました。今回体験したゲームは、2030年までの世界をシミュレーションできるというもので、子どもたちはゲームの時間が終わる最後の最後まで諦めずに、みんなで協力してよりよい世界にしていこうと頑張る姿が見られました。終わった後は「人は、経済などに気をとられすぎて、社会や環境は全然気にしていないことが分かったので、これからは環境や社会にも気をつけて生きていこうと思いました。」「SDGsという言葉は聞いたことがあったけど、こんな活動をしていることを初めて知りました。私も自分のできる行動を一つ一つがんばって取り組もうと思いました。」といった感想も。授業後、「おうちでできるSDGs」について考えた学校では、「トイレの電気とか消し忘れが多かったので気をつけようと思いました。」「ものや食べ物を余分に買っていたから、これからは、いる分だけ買ってねとお母さんに伝えようと思いました。」といった意見が出たそうです。

また、先日おでかけ公民館でSDGsとフェアトレードについて学んだ月出小学校6年生の皆さんは、その後も学校内で学びを続け、11月13日に国際交流会館で開催されたフェアトレード国際フォーラムでその成果を発表しました。ステージ上で堂々と意見を述べ、素晴らしい発表でした。発表の中には、「安く働かせて安く買っている私たちは、大名と同じだと思います。」といった、フェアトレードを身分制度とつないで考えた意見もありました。また、展示コーナーには、国語の授業で意見文としてまとめたものが展示されていました。教科を超えてさまざまな学びが繋がっています。

世界的な視野で考えつつ、自分たちにできることから行動していこうと頑張っている子どもたち。持続可能な未来のために自分にできることを考えてみませんか。

(託麻公民館 ☎380-8118)



泉ヶ丘小学校3年生



画図小学校3年生



泉ヶ丘小学校5年生



健軍東小学校5年生



月出小学校6年生

学習機会(公民館講座) ①関係課や関係機関(NPO等)と連携した講座の実施 の充実

河内公民館

講座名：オンラインでつながろう

講師：熊本市高齢者支援センター（ささえりあ）金峰職員

場所：（第1回）河内公民館、芳野コミセン、河内老人福祉センター、個人宅 （第2回）河内公民館、河内老人福祉センター、河内コミセン、小規模多機能型ホームひだまり

対象：地域に住む60歳以上の方

期日：令和3年11月4日（木）、12月23日（木） 時間：午前10時~11時半 費用：無料

【共催】熊本市高齢者支援センター（ささえりあ）金峰



概要

zoomアプリを使用して、公施設である河内公民館、芳野コミュニティセンターの2会場と講師の場所を繋ぎ、プロジェクターで大画面に映し出す。参加者はそれぞれの近くの会場で参加する。その他に地域の施設や個人宅からも参加できることを周知し、参加の場所や参加者を増やしていく。内容は前半30分が高齢者にとってためになる講話、後半30分が簡単な運動にして、知識も得られて身体も動かせるようにする。目標は月に1回、様々な場所から多くの方に参加いただき、講師も地域の方々や地域の施設等で指導されている方に依頼をして、地域みんなで学んでいくことができたらと思っている。まず、河内地域にある熊本市高齢者支援センター金峰の協力を得て、講師や地域への呼びかけをしていただくことになり、これまでに2回実施することができた。

どのようなねらいがあるのか

新型コロナウイルス感染症発生により高齢者が外に出て人と触れ合う機会が激減した。感染者数が減っている状況でも、感染を恐れて長時間や頻繁な外出をさける人や外出すること自体億劫になった人もいと聞く。体を動かしたり、刺激を受けたりする機会が減ること、体力や認知機能の低下が心配される。そこで、遠出をせずとも皆で同じ時間を過ごすことができればと思い、この講座を企画した。



講座の様子

2回共に事前テストを行ったにも関わらず、当日は電波が不安定になって突然切れてしまった団体があったり、機材の不具合で音が聞こえなかったり、画像が見えなかったりとスムーズにいかない部分があった。また、初めての体験で緊張された様子の参加者もいた。しかし、徐々に慣れてきて、画面に映る講師へ呼び掛けたり同じ会場の方々と声を掛け合ったり笑いがあったり等、楽しく活動されていた。全てが上手くいくスタートではなかったが、最後は全会場が笑顔で手を振りながら終わることができた。「久しぶりに講師の姿や声を聞いて嬉しかった。」「とても楽しかった。」「また参加したい。」「地域活動の一つとして取り入れたい。」という声が聞かれた。各会場内でも盛り上がり、画面上で楽しそうな他の会場の様子も見ることができ、繋がることの楽しさを実感していただいたのではないかと思います。

成果と課題

上記のトラブルを回避するためにWi-Fi環境や機材の確認は繰り返しやる必要がある。また、トラブルが起きた時のフォローの方法等についてもちゃんと決めておかなければならない。無料アカウント40分という限られた時間の中で進行していく工夫も必要である。この講座がもっと広まって、地域の高齢者にとって月に一度の楽しみの会になればと願っている。加えて、自宅や各地域に作られている自治公民館からの参加が可能になれば、再度自粛しなければならない状態になったとしても孤立する高齢者を減らすことができるのではないかと思います。

学習機会(公民館講座) ①関係課や関係機関(NPO等)と連携した講座の実施 の充実

清水公民館

講座名：「教育相談室」 講師：教育相談室員 場所：清水公民館

対象：わけあって小・中学校に行けない児童 期日：10月～3月 時間：午前か午後の区間 費用：無料

【共催】熊本市高齢者支援センター（ささえりあ）金峰

どのようなねらいがあるのか

よく民間、地域人材、専門機関、関係機関、NPO団体と公民館は連携を、と書いてある意見書を目にすることがある。しかしほとんどの公民館はすでにそれらの団体と連携し、地域のニーズに合わせて各々の団体の専門性を生かした講座を企画・実施しているのではないか、していない館の方が少ないのではないか、と感じている。

本当に公民館との連携が少ない団体とは、と考えた時、他の公民館、何より同じ熊本市の他課職員と連携した事例を見ることは少ない。

元々は9月に先方からの相談があった。「市内の小中学生で、学校に行けないで困っている児童がいる。」「その子たちにも学びの保障をしてあげたい、家にずっといるのではなく、外で友達と一緒に学び、遊ぶ機会を与えてあげたい。」「そのためには清水公民館で、児童が学べるように場所を提供して欲しい。」という相談だった。

そこで公民館施設を案内、紹介し、実際に清水公民館での指導が可能かの検討を行った。通うための交通の状況や駐車場。施設の研修室・ホール・テニス・料理実習室等の設備。貸館の空き状況。また児童館や図書室、公民館周りにある八景水谷公園等の施設。何より広報をして、何人の児童の応募があるか。実際に活動してみて、継続できそうか等試してみることになった。

応募してみたところ、参加希望者がおり、現在週に2回活動している。児童同士仲良くなりながら、共に学びながら、楽しく活動している。近年、コロナ禍で不登校の児童が急増している。学校に行けずに困っている児童が公民館に集い、先生と友達と学ぶ。こうやって互いに成長しあうことで、学校に戻ったり、何より本人が公民館で学べて良かったと思えたりするようになっていければと思う。

また、学校の勉強についていけない、家庭的事情等で家や塾で学べない、宿題や勉強を教えて欲しい、と言う児童も多く、教育格差等社会問題になっている。学力をつけたいのなら、学校にお願いばかりではなく、地域の活力、現場、何より人材が必要になる。公民館施設で、放課後に市の職員、地域の退職された先生方、勉強を教えられる方等協力を仰ぎ、連携して、学習で困っている児童が安心して学べる施設にもなっていったらと思う。

また今年度、清水公民館では他にも熊本市の他課職員と連携として、「危機管理防災総室からの防災」「動物愛護センターからの動物愛護」「保健子ども課からの感染予防」の主催講座を計画した。市の職員ということで、コロナ禍で中止になっても講師の方への影響が少なく、何より相手の課にとっても、自身の活動を広報したり、予防線を張ったり、受講生に実際に取り組んでいただいたりとメリットが大きい。公民館も、無償で専門家の講座を開催できる。市の活動を広めるためにも、今後熊本市の他課職員との連携を図っていききたい。

成果と課題

◎熊本市の他課職員と連携することで、無償で専門的な講座を計画・実施できる。

◎コロナ禍で急に中止になっても、熊本市の他課職員講師にとっては影響が少なく、打ち合わせ・発送等がCメール、teams等で行えて連携しやすい。

◎先方の課にとっても、自身の活動の紹介や広報、市民に実践していただける。

◎先方の課にとっても、他方の場所の確保など困っている課題を、条件さえ合えば公民館が協力・解決できる。

◎公民館の課題でもある若い方への周知や利用率を上げるため、何より学校と連携し教職員の負担を減らすためにも、不登校で悩んでいる児童を救うことは有益。

◎公民館同士がうまく連携すると負担が減り、講座の計画・実施等、幅が広がる。

◎コロナ禍で講座ができるか不安定のため、11月は予定していた主催講座に、中止になって延期して行うことになった講座、希望が多くて抽選で受けられなかった方へのサービスで行う講座等を追加したら、11月の主催講座数が23講座になった。今回は自館でのみ行ったが、実施が困難な場合は他館からも支援があると助かる。

◎Zoom放送等、新しい取組・機器操作、何より運営の仕方等、詳しい公民館の社会教育主事と連携しながら行えば、安心して実施・学ぶことができる。

△熊本市の他課職員で今まで講師・講演の経験がある方は少ない。講師依頼をしても、今まで依頼も少なく、講師経験がないため不安に感じられることがある。先方が十分な準備をするためにも打ち合わせ・依頼は早目に行う必要がある。

△公民館の立地条件・設備・貸し館の状況によっては、期待に応えられない。

△他の公民館と、講座内容・日程が近かったり、役割分担がうまく分けられたりできればスムーズに計画・実施できる。しかし急遽行う場合は、社会教育主事同士の技能と連携が必要になる。

△近隣で講師が重ならないように、少し離れた公民館と連携した方がいい。また、企画の段階で前もって打ち合わせする余裕はなく、同じ講師で連携できそうな公民館に声掛け、実施という形が多くなる。

△社会教育法第20条、公民館は市町村その他一定区域内の住民のために教育、事業を行うとある。ネットも大事だが、公民館地域の方を特に大切にしないといけない。

学習機会(公民館講座) ①関係課や関係機関(NPO 等)と連携した講座の実施 の充実 ■ ■ ■

北部公民館

講座名：北部ふれあい交流クリスマス会

講師：北部高校生ボランティアサークルわいわいHVC 後藤 乾二さん(バルーンアート講師)
場所：北部公民館 大会議室

対象：ほくぶキッズ遊学塾生(北部在住の小3～小6の児童24人) 北部地域在住の特別支援学級の小学生・中学生(2人) 障害者支援施設 チャレンジ明德の里 入所者(今回は参加者0) 他

期日：令和3年12月18日(土) 費用：無料

概要

どのようなねらいがあるのか

今回で29回目を迎えた北部ふれあいクリスマス交流会、「地域の子は地域で育てる。」「隣の人が隣の人を支え合える温かい北部にしたい。」という理念のもと、しょうがいがある人もない人も北部の仲間として一緒にクリスマスを楽しもうという目的で開催されてきた。北部高校生ボランティアサークルわいわいHVC、北部地域青少年健全育成協議会、北部公民館の3団体が主催で、北部中学校が協力して会の運営に携わっている。



講座の様子

コロナ禍ということで、例年行ってきたクリスマスケーキ作り等の活動はできないので、今回は、バルーンアートの後藤 乾二さんを講師に招いて、みんなで、バルーンアートづくりを楽しんだ。

その他、北部中学校 J R C 部員によるハンドベル演奏※今回はコロナ禍の為DVDでの出演、ビンゴゲーム、サンタさんとトナカイさんからのプレゼント渡しなどコロナ禍でもできるイベントで楽しんだ。



成果と課題

昨年は、コロナ感染拡大防止の為、中止となったので、今年は、コロナ対策を十分に行った上での開催で、クリスマスケーキ作り等従来行ってきた活動はできなかったものの、コロナ禍でもできる活動を主催者3団体協議の元、楽しく安全に行うことができてよかった。

ただ、北部公民館エリアの小・中学校の特別支援学級の子どもたちに参加案内を配り、参加の呼びかけを行ったが、小学校、中学校から1人ずつの合計2人の参加と少なかった。障害者支援施設 チャレンジ明德の里については、コロナの影響が大きく、参加者が0であった。

コロナ禍ということだけではなく、ここ数年、ほくぶキッズ遊学塾以外の参加者が減る傾向が続いており、誰もが、気軽に参加できるような案内の仕方や会の内容を考える時がきているように感じられる。

主催の3団体でしっかり考えて、次年度の北部ふれあいクリスマス交流会に活かしていきたい。

学習機会(公民館講座) ②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

託麻公民館

講座名：おでかけ公民館「SDGsと防災について学ぶ」

講師：防災WEST 吉良 正子さん（気象予報士・防災士） 消防士・防災士 徳永 伸介さん
社会教育主事・防災士 神田みゆき

場所：二岡中学校 体育館 対象：どなたでも

期日：令和3年（2021年）7月2日 時間：午後2時～4時 費用：無料

概要

どのようなねらいがあるのか。

総合的な学習の時間に、SDGsについて学びを深めていく中で、「地球上で起きている問題にはどのようなものがあるか」というアンケートを取らせていただいたところ、生徒に一番関心の高かったのが地球温暖化である。そこで、この地球温暖化についてさらに詳しく学ぶ講座を開催した。人吉の豪雨水害から一年という時期であることも踏まえ、その日の様子や被害の状況などを振り返りながら、地球温暖化がきっかけとなって起こる異常気象などについて専門家から学び、具体的な行動を考えていく講座を企画した。

講座の様子

はじめに、地球上で起きている問題でみんなの一番関心の高かった地球温暖化について振り返り、地球温暖化によってどのような問題が起こるかについてみんなで考えるところからスタートした。次に、気象予報士で防災士の吉良さんから話を聞き、オンラインで繋いだ消防士で防災士の徳永さんからも話を聞き、「クロスロード」というゲームを体験した。また、気象情報の見方やハザードマップなどについて学び、具体的にどんな行動をとっていくとよいかを考えた。生徒たちは自分たちにできることを考え、「家族や周りの人に学んだことを伝える」「天気予報などをしっかり見る」「ハザードマップを確認する」「防災グッズを用意する」などの意見を出していた。

成果と課題

SDGsをきっかけとして地球上の課題を考えていく中で、遠い話ではなく自分たちにも関係のある問題なのだという事に気づくことができていた。また、オンラインで講師を繋いでスクリーンに投影して話を聞くという場面も作り、オンラインの様々な可能性について模索することができた。また、子どもたちの学びと気づきを市政だよりに掲載し、市民の啓発に繋げることができた。今後は、ハザードマップを持って地域を歩いてみたり、大雨や台風などに備えてマイタイムラインを作成したりしてさらに学びを深めていく予定で、熊本県の危機管理課などとの連携もできていくと感じた。課題としては、オンラインで中継するときに電波状況が良くない場面があったという点である。ここについては機材の充実などの必要性も感じた。

地球温暖化と防災について学ぶ



SDGs(持続可能な開発目標)について学ぶ学校が増えています。出前講座やおでかけ公民館などを活用した取り組みをご紹介します。

託麻西小学校5年生は、国語「環境問題について報告しよう」という授業と、総合的な学習の時間の授業とをつないで、講師や地球温暖化防止活動推進員から、SDGsや地球温暖化について学ぶ時間がありました。授業では、「環境問題についてもっと知りたい」「自分にできることをやっていきたい」という子どもたちの声がありました。授業後は、自分から進んでSDGsや環境問題について調べ学習をしたり、会話をしたりする姿も見られたそうです。



二岡中学校2年生は、総合的な学習の時間に、アンケートで一番関心の高かった地球温暖化についてさらに詳しく学びました。地球温暖化がきっかけとなって起こる異常気象などについて、気象予報士や防災士の方から話を聞き、「クロスロード」というゲームを体験しました。また、気象情報の見方やハザードマップなどについて学び、具体的にどんな行動をとっていくとよいかを考えました。生徒たちは自分たちにできることを考え、「家族や周りの人に学んだことを伝える」「天気予報などをしっかり見る」「ハザードマップを確認する」「防災グッズを用意する」などの意見を出していました。今後は、ハザードマップを持って地域を歩いてみたり、大雨や台風などに備えてマイタイムラインを作成したりしてさらに学びを深めていく予定です。



(託麻公民館 ☎380-8118)

学習機会(公民館講座) の充実

②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

託麻公民館

講座名：防災について考えよう！（SDGs×防災）

講師：山都町教育長 井手文雄 歌うママ防災士 柳原志保

社会教育主事・防災士 神田みゆき 場所：オンライン（zoom） 対象：どなたでも

期日：令和3年（2021年）9月17日 時間：午前10時～11時 費用：無料

概要

どのようなねらいがあるのか。

SDGs11の「住み続けられるまちづくりを」には、災害に強いまちづくりという意味も含まれる。また、SDGs13の「気候変動に具体的な対策を」にも、自然災害への対策について書かれている。熊本市はSDGs未来都市に選定されているが、そこで重点項目として掲げている目標はSDGs11「熊本地震の経験を生かした災害に強いまちづくり」である。そこで、SDGsをきっかけとした話題提供からスタートして、熊本地震やこれまでの自然災害を振り返り、実際に発災したときに具体的にどのような対応をしてきたのか、また、これからまた起こるであろう自然災害から身を守るためにできることは何かについて考え、防災意識を高める機会とした。

講座の様子

まず初めに、SDGsとは何かと、熊本市がSDGs未来都市となった掲げた目標などについて紹介した。その後、熊本地震のときに、避難所となった益城町立広安西小学校で当時校長だった井手先生（現在は山都町教育長）から、当時の対応と避難者に寄り添った対応の大切さをお聞きするとともに、宮城県で被災し、熊本に移住してから熊本でも被災した経験をもとに防災士として活動する柳原さんからは、どのように災害から身を守っていくのかということをお話しいただいた。講座はオンライン（zoom）で双方向のやり取りをしながら行い、質問などがあればチャットなどを使って書いていただき、それにこたえるような場面も設定し、意見交流をすることができた。



成果と課題

まず、講師の先生方の出会いの場となったことが良かった。オンラインの講座は、カメラを切ったままの状態に参加する方も多く、参加者との交流が難しくなる場面もある。そこで、参加者対講師という構図だけでなく、講師同士の対談もできるよう、複数の講師を招く講座とした。講師からも「普段の講座では自分が話して終わりという場面が多い中で、双方の話を聞いたことで学びもたくさんあってよかった。」という感想をいただいた。平日開催だったので、参加者の確保が難しい部分もあったのが今後の課題である。しかし、オンラインの特性を生かし、全国各地から参加者がいたというのは良かった。

学習機会(公民館講座) の充実



②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

西部公民館

講座名：LINE 初級

講師：アビリティスクール マリオネット

社会教育主事・防災士 神田みゆき 場所：西部公民館 2F 会議室 A 対象：どなたでも
期日：令和3年7月6日、13日(火) 時間：午前10時～正午 費用：600円

概要

どのようなねらいがあるのか。

熊本地震以来SNSの普及は続いているが、高齢者にとっては、なかなか踏み出しにくいものである。自分自身の経験とはなるが、前震後に電話はつながらないが、LINEなら連絡が取れるということが実際に起こっていた。このことをもとに、高齢者がせっかくスマートフォンに乗り換えたのならば、LINEを積極的に活用してもらいたい、というねらいをもって続けている。また、対象を“どなたでも”としているが、もともと高齢者をターゲットにしているため、設定する日時も平日の午前中を選び、よりアピールできる講座として組み立てている。

また、西区においては、高齢者のICT技術への対応という部分では、多少遅れていると感じる部分も少なくなく、より積極的に、この種の講座を展開していきたいと考えている。

講座の様子

講座生同士で即席のグループを作成し、講座の間だけのLINEを楽しむ姿が見られた。また、受講中に感想を尋ねたところお孫さんとLINEを使ってつながった。写真を送りあって話が弾んでいる。とのお話を聞くことができた。

成果と課題

講座生同士のつながりという部分ではうまくできなかったが、LINEというツールで家族同士のつながりは増やすことができたと感じた。LINEを使う以前にスマホを使うことが苦手という方も多く、今後の課題だと考える。

学習機会(公民館講座) ②震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

南部公民館

講座名：わくドキぼうさい調査隊！

講師：ソナエトコ代表 水野 直樹 他スタッフ3人 場所：南部公民館ホール及び中庭

対象：小学生と保護者 期日：令和3年(2021年)11月7日(日)

時間：午前10時～正午 費用：無料

概要

どのようなねらいがあるのか。



小学生年代の防災への意識を高めることは、親子での共通体験が有効であろうとの思いでプログラムを企画した。この年代から災害への関心を持つことで、あらゆる集団の中でも備えることの大事さを広めるキーパーソンになってくれることをねらう。

生活の中で想定される災害について、それぞれに対処法が違ってくこと、備え方も変わることを経験コーナーごとに発見と理解が結び付くような仕掛けを考えた構成とした。

講座の様子

①段ボール箱を使って椅子を作る工作

いろんなタイプの段ボール紙の中から一つを選び、養生テープで固定するだけ。子どもたちは保護者やスタッフとともに大人が座っても十分な強度を持つ段ボール椅子を作り、その椅子に座りつつその後の体験を行った。避難先などで座る場所が確保できないときや野外活動などにも生かせることを保護者とともに体験できた。

②カードとイラストで災害の種類と対処の仕方を学ぶ体験

③新聞紙をつかった遊び、新聞紙は寒さをしのぎ、体温を逃がさない使い方ができることを体験

④傘袋を利用してあめ玉を入れて作るレイ(首飾り)の作成 防災食づくり体験

⑤空き缶炊飯体験

一番時間をかけてがんばったのは空き缶炊飯だった。「いち、にい、さん、し」ととなえながら牛乳パックを短冊状にはさみで切った燃料(これも体験)を投入し続ける作業に汗を流した。

その空き缶の中で炊けたごはんをほおぼる子どもたちの笑顔は達成感にあふれ、とても輝いていた。

成果と課題

成果として、講師との打ち合わせを十分に行ったこと、子どもたち全員それぞれに保護者を含めサポートできるペアでの活動が確保できたことが最大の成果を生むことにつながった。

「いろんなことが勉強になった」「空き缶で炊いたご飯はおいしかった」という子どもたちの声や「いつもはほとんどご飯を食べない子がこんなにいっぱい食べるなんて…」という保護者の声を聞くことができた。

今回本講座を実施したことで低学年の子どもたちでも防災への備えについて体験を通して学ぶ機会を提供できることが分かった。

課題について、本講座の企画段階から講師とともに懸念していた応募者の少なさである。原因としてあげられる点は、コロナ禍における体験講座であることや防災への関心の低下などであろうか。広報については、管内小学校へのチラシの配布や市公式LINEでの案内など行ったが効果は上がらなかった。



学習機会(公民館講座) の充実

③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

五福公民館

講座名：おでかけ公民館講座ハートフル講演会 いのちをいただく 講演会

講師：坂本 義喜 場所：五福小学校体育館 対象：五福小学校3年生・4年生

期日：12月23日(木) 時間：午前10時～11時半 費用：無料

概要

我々は、動物や植物の命をいただくことで、栄養を摂取して生きていくことができる。あらゆる命に生かされていることに感謝をしながら、日々を過ごす態度を育てる。まあ、講師の差別を受けた経験を聞くことにより、差別発言や考え方を許さない態度を育てる。

どのようなねらいがあるのか。

我々は、動物や植物の命をいただくことで、栄養を摂取して生きていくことができる。あらゆる命に生かされていることに感謝をしながら、日々を過ごす態度を育てる。まあ、講師の差別を受けた経験を聞くことにより、差別発言や考え方を許さない態度を育てる。

講座の様子

「まなぶ」場の設定。昨年はオンラインによる人権講話を行った五福小学校であったが、今年度は対面にて講師の生の表情や声を子どもたちに届けることを選んだ。講師の生き生きとした表情豊かな語り口に引き込まれていく子どもたちは、言葉の細かな部分まで聞き入り、命をいただきながら生かされていることに気づくことができ、大切な「まなび」をすることができた。

成果と課題

今回は、講話ということであったが、DVDの視聴の時間を作っていた。DVDの内容は、家畜が食肉になっていく過程を施設の映像や食肉の解体過程の画像などがあり、講師の話に臨場感を付加するものとなっていた。子どもたちも興味深く講話と併せて視聴していた。また、講師の話は絵本となっており、図書室に子どもたちが通う契機となった。同時に社教主事に「公民館の図書室にもあるんですか？」と聞いてくる子どもたちもあり、地域の施設と子どもたちの日常を連結をする働きがあった。

学習機会(公民館講座) の充実

③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

託麻公民館

講座名：いのちをいただく 講演会

講師：坂本 義喜 場所：① オンライン (zoom) ② 清水公民館 ③ 託麻北小学校

対象：①・② どなたでも③ 小学4年生

期日：① 令和3年(2021年)9月29日② 令和3年(2021年)11月7日③ 令和3年(2021年)11月25日

時間：①・② 午前10時～11時半③ 午後2時～3時 費用：無料

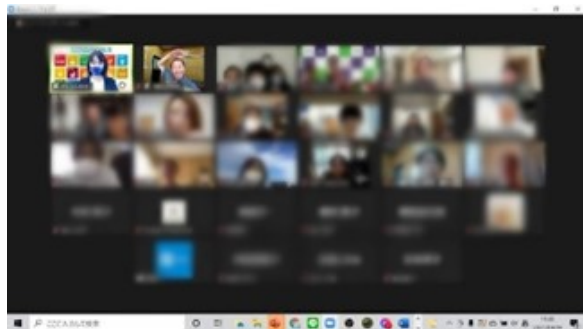
概要

どのようなねらいがあるのか。

①食べるということは命をいただくことであることを改めて気づくとともに、どの仕事も大切な仕事であるということに気づいていただく。また、「食べる」という、誰もが生きていくために必要なことについて考えることをきっかけとして、同和問題についても考える機会としたいと思い企画した。

②清水公民館と連携し、オンライン関係の担当を託麻公民館社会教育主事が担い、受付や現地対応などを清水公民館社会教育主事が対応してイベントを行った。オンラインとリアルハイブリッドで開催することで、オンラインが苦手な人も参加できるようにした。

③小学校においては、校内研修講師としてまず学んでいただく機会を持っていただくことをご提案し、人権教育指導室の植村先生とも連絡を取り合っており、人権教育の校内研修の講師としてまずは話を聞いていただく場をコーディネートし、(この場合の講師謝礼支払は人権教育指導室より)そのうえで授業実践され、学んだ子どもたちが本物の坂本さんから直接話を聞くという流れを提案し、ハートフル講演会を実施した。



講座の様子

①・②最初に絵本の読み聞かせからスタートし、坂本さんの話を聞いた。チャットで質問を受け付け、それを読んでやり取りさせていただきながら講座を展開した。全国各地から、そして海外からも多数の参加があった。入院中の方も参加してくださっていて、オンライン開催はあらゆる立場の方の参加の可能性を広げることができるということを改めて感じた。

成果と課題

①の時は人権教育指導室の植村先生がサポートしてくださった。また、②のときは清水公民館の豊田社会教育主事と分担して開催できたのがとてもよかった。オンラインイベントは、役割分担をして開催することでいろいろな可能性を展開できると思う。

また、③の学校開催では、先生方からとても深い学びができたとの感想をいただいた。学校の学びをトータルでコーディネートするのをお手伝いしていくというのは、今後の開かれた教育課程実現のために必要な役割だと改めて感じた。



学習機会(公民館講座) の充実

③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

龍田公民館

講座名：心に響くギター弾き語り

講師：大山桂司 場所：龍田公民館 ホール 対象どなたでも 期日：令和3年12月5日(日)

時間：午前10時～11時 費用：無料

概要

どのようなねらいがあるのか。



今年2021年は、東京パラリンピックも開催され、障がいをもつ方への理解を深めるよい機会だと捉えた。障がいをもつ方を理解し、だれにとっても住みやすい、やさしい社会を作るためには、障がいをもつ方に身近に接し、コミュニケーションをとることが大切だと考える。大山さんは、シンガーソングライターとして自分の思いを歌詞にのせて心をこめて演奏される。その素晴らしい歌や演奏を聴きながら、私たちの心の中にあるバリアをなくしていきたい、というねらいのもとに企画した。

講座の様子

「まなぶ」・・・実際に盲目の方がギターを演奏し実際に歌う姿は、想像以上に困難なことだ、と実感する学びの機会となった。「実際に見る」「実際に聞く」という機会が、新型コロナの影響でとても少なくなっていたと感じた。実際のリアルな経験は、リモートや映像でのバーチャルな体験と違い、学びの場として大切な役割をもつと思う。参加者と“一体感”をもって学習することの意義を感じた講座だった。

成果と課題

実際に歌と演奏を聴くことで、大山さんの気持ちが伝わってくるような雰囲気 of 講演会だった。MCで自分自身の事を言葉で話され、歌詞にこめた思いや、どのような社会が、だれにとってもやさしい社会になるのか、について考えることができた。障がい、他人事ではなく“自分事”として理解することができた。

課題としては、参加者との交流する時間を設定すればよかったと思う。お互いに自分の思いや感想を交流する時間を設定できれば、出演者にとっても参加者にとっても学びの深まる時間になったと思った。

学習機会(公民館講座) の充実

③あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

植木公民館

講座名：SNS上の人権侵害を無くすために

講師：(株) マリオネット 代表取締役 村上 奈美 場所：植木文化センター 多目的ホール

対象：成人 期日：令和3年7月8日(木) 時間：午後7時～午後9時 費用：無料

どのようなねらいがあるのか。

今、SNS上における誹謗中傷等の人権侵害が大きな問題となっている。そして、それを苦に自殺する人もいる。今回の講演会では、その実態を知るとともに、自分が加害者にならないために大切なことや万一自分や家族が人権侵害を受けたらどう対処すればよいのかを講演を聞いて学んでいくこととする。

講座の様子

今回は、JA鹿本植木支所職員の方々にも協力をいただき、多数の参加協力を得ることができた。一般からの応募もあり、コロナ禍の中ではあったが、40名近くの参加者があった。既婚者、独身、年代もそれぞれであり、内容も広く準備してあった。

講師自身の家族構成、ネット使用の状況、トラブルへの関与などをもとに、具体的な話をしてもらい、現実がどういう状況なのかを知ることとなった。

各種SNSの使用年齢制限について守られていない現状、事件に巻き込まれていく子どもたちの様子、親や保護者が無関心であることの危険性など、話を聞くことで身近な問題であることがさらに浮かび上がってきたようであった。

講師の話の中で、「インターネットは自動車の運転に似ている。思いやり、想像力、判断力が大事である。」と言われた。この3つを意識して今の時代に必要不可欠なSNSと向き合っていかなければならないと参加者は改めて感じたようであった。

成果と課題

知っているようで意外と知らないことや、無頓着に済ませていることなどを今回の講演で改めて考える機会となったようだ。世の中に普及しているSNSではあるが、便利さの裏には危険性が多く潜んでいる。自分の軽はずみな行動で相手を傷つけたり、自分自身が窮地に追い込まれたりすることもある。正しく知って、注意深く関わるのが大切である。人権が奪われたり、人権を奪ったりすることのない社会の実現のために、一人一人が思いやりを持ち、正しい判断のできる人間になっていきたい。そう考えさせられる講演会であった。

今回は講師の講話形式となったが、参加型の講演会にし、参加者がもっと積極的に自分を振り返ることのできる場面を作ることができればよかった。

令和3年度 人権教育・啓発関連 「講演会」・「講座」等 の実施状況（予定も含む）

館名	期日 (複数回の 場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」 講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・ その他)
大江	6月15日	講演会	ハートフル講演会 「今の私たちが水俣病 を知ることの大切さ」	三枝三七子さん (絵本作家)	水俣病から学んだことを経験 として今の私たちの暮らしの 中にいかに忘れないで生かし ていくかを考える。	水俣病を めぐる人 権	人権教育指導室	
五福	11月21日	講演会	人権トークセッション 「仲間と一緒にだからつ かめた夢～努力の道 は、夢への道！！～	垣岩令佳さん (再春館製薬所) 前田美順さん (熊本中央高校 バドミントン部 コーチ)	五輪出場、メダル獲得という 夢を追うために、努力を積み 重ねる過程で、仲間と一緒に 励まし合いながら命を輝かせ る大切さについて	人権全般		
五福	11月14日	講演会	地域公民館五福公民館 との コラボ講演会	沢畑 亨さん (愛林館館長)	水俣の棚田を保全する活動や 環境面の活動を行う中で、自 然と人との共生することの大 切さを知り、今の自分にでき る行動を起こすことに力を入 れる。	人権全般		
五福	12月23日	講演会	ハートフル講演会 「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	様々な命をいただいて生きて いること、そして、そのため に様々な命の仕事が営まれて いることが分かり、感謝の気 持ちを持つ。	同和問題 人権全般	人権教育指導室	五福小学校 3・4年生84 人 教職員6人 計90人
東部	7月17日	講演会	教養講演会 「LGBTってご存じです か？ ～正しく知ってほしい 性別の話～」	今坂洋志さん (ともに拓く LGBTQ+の会くま もと代表)	LGBTQについて知り、当事者 の思いなどにふれ、人権感覚 を豊かにするとともに、共生 (インクルーシブ)社会の実 現にむけた地域社会の素地を 作る。	性同一性 障がい・ 性的指向 をめぐる 人権		地域住民
東部	1月26日	講演会	ハートフル講演会 「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	「いのちをいただく」の絵本 からスタートし、小学生と教 職員、住民の人権意識の高揚 を図る。	同和問題	人権教育指導室	山ノ内小学 校3・4年生 (新型コロ ナウイルス 感染拡大の ため延期予 定)
託麻	9月29日	講演会	教養講演会 「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	「いのちをいただく」の絵本 からスタートし、住民の人権 意識の高揚を図る。	同和問題		地域住民
託麻	11月7日	講演会	教養講演会 「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	「いのちをいただく」の絵本 からスタートし、住民の人権 意識の高揚を図る。	同和問題	清水公民館	地域住民
託麻	11月25日	講演会	ハートフル講演会 「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	「いのちをいただく」の絵本 からスタートし、小学生と教 職員、住民の人権意識の高揚 を図る。	同和問題	人権教育指導室	地域住民・ 小学生・教 職員
秋津	12月4日	講演会	新型コロナウイルスに 罹患して ～「差別」と「温かい 励まし」～	前田 強さん (馬肉料理 2代 目天國)	新型コロナウイルスに感染し た体験談(差別と励ましの声 を受けて)。差別の構造を考 える。	人権全般		
秋津	12月23日	講演会	ハートフル講演会 オンライン版 あすチャレ ジュニア アカデミー (パラアスリートの講 話)	日本財団パラリ ンピックサポー トセンタ派遣講 師(パラアス リート)	共生社会についてパラアス リートの講話から考える	障がい者 の人権	人権教育指導室	
秋津	2月18日	講演会	ハートフル講演会 「水俣から未来へ」	杉本 肇さん (水俣病語り 部)	水俣から未来へ	水俣病に かかわる 人権	人権教育指導室	

令和3年度 人権教育・啓発関連 「講演会」・「講座」等 の実施状況（予定も含む）

館名	期日 (複数回の 場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」 講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・ その他)
西部	10月12日	講演会	ハートフル講演会 「みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ」	三枝三七子さん (絵本作家)	水俣病をめぐる人権について 正しく知ること、相手を知り 思いやる心の大切さを学ぶ	水俣病を めぐる人 権	人権教育指導室	池上小学校 5年生 保 護者3人 (講師リ モート、保 護者も別部 屋にてリ モート参 加)
花園	11月11日	講演会	ハートフル講演会 「多様な“性”につい て～ “性”のあり方につい て考えてみる」	曾方晴希さん (LGBTQ+ユース セーフスパー ス) しまさん(くま にじ)	それぞれのライフストーリー を聞いてもらい、性にはいろ いろな在り方があることを 知ってもらい、一緒に考えて もらいたい。	性同一性 障がい・ 性的指向 をめぐる 人権	人権教育指導室	千原台高校 1～3年生 560人 職員 60人
花園	12月10日	講演会	「コロナ禍における 人権差別の解消に向け て」	前田 強さん (馬肉料理 2代 目天國)	講師の体験談を通じて、コロ ナ禍における人権差別につ いてどのように受け止め、行動 すればよいか考える機会を持 つ。	その他	人権教育指導室	城西小学校 1～6年生 682人 職員 40人 zoomを使っ て各教室で 受講
河内	8月21日	講演会	「イライラや怒りの感 情と 上手に付き合う アンガーマネジメン ト」	池田福美さん	アンガーマネジメントの基礎 を学ぶ	人権全般		(新型コロ ナウイルス 感染拡大の ため中止)
南部	10月9日	講演会	ハートフル講演会 「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	解体業を生業とされていた講 師が出会った少女とのエピ ソードにより、人との出会い や差別の不合理を考える。	人権全般	人権教育指導室	小学生・教 職員・保護 者
幸田	12月2日	講演会	ハートフル講演会 「ストリートチルド レンに学ぶ 生き方」	寺本真将さん (写真家・フ リースクール代 表)	学校に行けなくて働く世界の 子どもたちの現状を知り、子 どもの人権について考える機 会とする。	子どもの 人権	人権教育指導室	田迎南小6 年生 zoomでの講 演会
鮎田	9月24日	講演会	ハートフル講演会 「コロナ感染症の体験 から」	前田強さん (馬肉料理 2代 目天國)	新型コロナウイルス感染から 回復された講師から、闘病生 活・悩んだ末の店名公表・温 かい周囲の励まし等、経験か ら子どもたちに今伝えたいこ と	人権全般	人権教育指導室	鮎田南小学 校全児童 220人
富合	9月16日	講演会	ハートフル講演会 「ハンセン病をめぐる 人権」	坂本みゆきさん (恵楓園ボラン ティアガイド)	ハンセン病を正しく理解し、 自分たちのあるべき姿を考え ていく。	ハンセン 病回復者 等の人権	人権教育指導室	富合中学校 放送室より ZOOM配信。 子どもたち は教室で視 聴。コロナ 感染症予防 のため
城南	7月6日	講演会	転入者人権教育研修会	栗山重信さん (人権の風)	部落問題について 学校での人権教育について (これまでの城南町の実態を 知り、今後の人権教育に生か す)	同和問題	城南町校長園長 会	今年度、城 南地域小学 校及び中学 校、幼稚園 に転入した 教職員が中 心
城南	7月14日	講演会	第1回人権文化セミ ナー 「我流の人権教育論～ 大人が変われば子ども が変わる」	野田幸孝さん (元教育公務 員)	学校教育の中で取り組んできた 人権教育と子どもの育ちを 総合的にとらえ、これからの 人権教育・家庭教育を提言 (人権教育の捉え方・あり方 等基本となる部分の話の聞 き、本年度のセミナーの根幹 とする)	人権全般	人権教育指導室	オンライン 57人、会場 15人
城南	10月13日	講演会	第2回人権文化セミ ナー 「なかまとつながる部 落に生まれて」	森山資典さん (荒尾市立清里 小学校校長)	出身教員としてこれまでの経 験を通して、なかまとつな がっていくことの大切さにつ いて	同和問題	人権教育指導室	オンライン を中心に実 施

令和3年度 人権教育・啓発関連 「講演会」・「講座」等 の実施状況（予定も含む）

館名	期日 (複数回の 場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」 講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・ その他)
城南	1月12日	講演会	第3回人権文化セミナー 「落語で語る人権の 嘶」	粗忽家勘心さん (落語家)	落語で語る人権の嘶	人権全般	人権教育指導室	オンライン を中心に実 施
城南	2月9日	講演会	第4回人権文化セミナー 「あるコピーライターの 伝え方」	玉山貴康さん (東京コピーラ イターズクラ ブ)	部落問題について	同和問題	人権教育指導室 市人権啓発市民 協議会	(新型コロ ナウイルス 感染拡大の ため中止)
龍田	10月5日	講演会	教養講演会 「心に響くギター弾き 語り」	大山桂司さん	シンガーソングライターとして 作曲した曲の演奏を聴きなが ら、障がいについて理解を 深める。	障がい者 の人権		地域住民59 人
龍田	10月7日	講演会	ハートフル講演会 「みなまたから学ぶ 思いやりの大切さ」	三枝三七子さん (絵本作家)	水俣病をめぐる人権について 正しく知り、自分の生活と水 俣のつながりについて考え る。	水俣病を めぐる人 権	人権教育指導室	弓削小学校 5年生57人 教職員3人
龍田	10月15日	講演会	ハートフル講演会 「自分らしく人生を歩 む」	富田宇宙さん	東京パラリンピックの経験をも とにした講話を通して、自 分自身を知り、夢をもって進 むことの大切さを知る。	障がい者 の人権	人権教育指導室	武蔵小学校 児童261人 教職員14人
清水	11月7日	講演会	「いのちをいただく」	坂本義喜さん (元熊本市食肉 解体作業員・は なし人)	「いのちをいただく」の読み 聞かせの後、作者自ら牛の様 子や思い、他の登場人物のこ とを語っていただき、人権意 識を高める。	人権全般	託麻公民館	地域住民28 人
北部	10月6日	講演会	ハートフル講演会 「タッピングにかけた 想いとそれまでの道の り」 ～目標をもち、支え あって生きる～	尾原遼平さん (タッパー)	目標をもつことの素晴らしさ や社会は支えあって成り立っ ていることを学び、自己の生 き方を考えていくための資 質・能力を育成	障がい者 の人権	人権教育指導室	西里小6年 児童58人 教職員・保 護者・住民 20人
植木	7月8日	講演会	教養講演会 「SNS上の人権侵害を 無くすために」	村上奈美さん (マリオネット 代表取締役)	SNS上における誹謗中傷等の 人権侵害について実態を知 るとともに、自分が加害者にな らないために大切なことや人 権侵害を受けた時の対処法を 学ぶ。	インター ネットに よる人権 侵害		JA鹿本植木 支所職員 地域住民計 40人
龍田 清水 北部 植木	11月19日	講演会	教養講演会 「高次脳機能障がいと 向き合って ～ゼロからのスタート！～」	一ノ瀬たけしさん (プロ歌手)	高次脳機能障がいから立ち直 り、歌手として活動されてい る一ノ瀬たけしさんの講演と 歌声を聴き、人権意識を高 める。	障がい者 の人権	北区4公民館主 催 市人権啓発市民 協議会	地域住民23 人
中央	7月15日	講座	はじめての手話講座	中田順子さん (財団法人熊本 県ろう者福祉協 会)	手話を学び、手と手のコミュ ニケーションで聞こえない方 と日常会話ができる様に学習 する。	障がい者 の人権		7回シリー ズ
大江	2月18日	講座	はじめての手話講座	田中みさ代さん (わかぎ)	初心者のための手話講座	障がい者 の人権		
託麻	6月18日	講座	障がい者サポーター養成講座	福祉課	中学生の障がい者に対する理 解を促進し、人権意識の高揚 を図る。	障がい者 の人権	福祉課	中学生・教 職員
託麻	9月11日	講座	SDGs×フェアトレード	明石祥子さん (フェアトレード シティくまもと 実行委員会) 前田康裕さん (市教育セン ター) 託麻公民館社会 教育主事	SDGsとフェアトレードにつ いて学ぶとともに、海外での 児童労働や子どもの貧困の現 実などについて知り、今後私 たちがどのように行動に移し ていくかを考える。	子どもの 人権	熊本市公民館 県ユニセフ協会 熊本大学教職大 学院 フェアトレード シティくまもと 推進委員会 市教育委員会 市教育センター	地域住民

令和3年度 人権教育・啓発関連 「講演会」・「講座」等 の実施状況（予定も含む）

館名	期日 (複数回の 場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」 講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・ その他)
託麻	9月17日	講座	SDGs×防災 「防災について考えよう！」	井手文雄さん (山都町教育 長) 柳原志保さん (歌うママ防災 士) 託麻公民館社会 教育主事	避難者の人権を守り、寄り 添った対応をすることの大切 さを知るとともに、どのよう に災害から身を守っていくか などについて考え、防災意識 を高める。	人権全般		地域住民
花園	12月10日	講座	感染症による人権問題 について	前田 強さん (馬肉料理 2代 目天國)	感染症による人権問題につ いて学ぶ研修会を実施したい。 講師の前田さんは、ご自身の 体験をもとに講演を行い、啓 発活動を行っている方であ る。	その他		西区小学校 校長会 13 人
河内	2月18日	講座	ハートフル講演会	高橋尚子さん	立志式での記念講演	障がい者 の人権	人権教育指導室	河内中2年 生・保護者 オンライン (Zoom使 用)で実施
南部	10月13日	講座	傾聴ボランティア養成 講座	平江愛子さん (傾聴ネット キーステーショ ン)	傾聴の入門講座	その他		7回シリー ズ
南部	10月26日	講座	パラリンピック学習と パラスポーツ「ボッ チャ」体験	吉田祐一さん (Arts and Sports for Everyone)	国語の教科書にも出ており、 東京パラリンピックで金メダ ルを取ったボッチャ。体験を 通して、パラリンピック、障 がい者理解を深める。	障がい者 の人権		城南小学校 3年生 27 人
南部	2月3日	講座	楽しく学べる手話講座	田中みさ代さん (わかぎ)	手話入門講座 手話に触れるとともにボラン ティアにもつながるきっかけ とする	障がい者 の人権		4回シリー ズ
幸田	12月10日	講座	家庭教育学級 「講話&筆ペンで書く 年賀状の書き方のコ ツ」	横田久代さん	不二の病で、下半身が不自由 になられた方の現状を知り、 ペン字を使った年賀状の書き 方を習い、障がい者の人権に ついて考える機会とする。	障がい者 の人権		家庭教育学 級講座
鮑田	11月2日	講座	おでかけ公民館 「手話講座」	ふれあい文化セ ンター 社会教育主事	★聴覚障害理解と手話体験★ 音が聞こえなければ、自分が 出す声も聞こえず構音できず に、多くの場面で生活に困る ことを理解し、手話が難聴者 にとって大切な言葉であるこ とを知って手話を体験する。	障がい者 の人権	ふれあい文化セ ンター	鮑田東小学 校4年1組 32人
鮑田	11月4日	講座	おでかけ公民館 「手話講座」	ふれあい文化セ ンター 社会教育主事		障がい者 の人権	ふれあい文化セ ンター	鮑田東小学 校4年 65 人
天明	2月17日	講座	「感染対策と 新型コロナワクチン開 発」	Mバイオロジク	感染症の感染予防及びワクチ ン接種に関する偏見や間違っ た情報・誤解をただし、感染 症に対して正しく恐れ、対策 を講じることができるように する。	その他		20人
城南	10月1日	講座	楽しく学べる手話講座	田中みさ代さん (わかぎ)	手話入門講座 手話に触れるとともにボラン ティアにもつながるきっかけ とする	障がい者 の人権		8回シリー ズ 中学生・大 学生も参加 し、異世代 交流にも なった。
城南	11月3日	講座	心に寄り添う傾聴2021	傾聴ネットキー ステーション	傾聴の入門講座 復興住宅等での現地研修も計 画	その他		8回シリー ズ 座学だけで なく、実際 に傾聴の現 場で実習を 行う予定 だったが、 諸事情によ り別な研修 会に参加。

令和3年度 人権教育・啓発関連 「講演会」・「講座」等 の実施状況（予定も含む）

館名	期日 (複数回の 場合初回)	種類 (リスト)	講演会名「演題」 講座名	講師 (所属等)	内容	人権課題 (リスト)	共催等	備考 (対象・ その他)
城南	12月12日	講座	親子で学ぼう世界の国 2021	JICAデスク熊本 海外協力隊員	アフリカルタを使って、アフリカのことを知る 日本と同じところや違いを発見し、国際理解につなげる SDG'sも取り入れる	外国人の人権	JICAデスク熊本	SDG'sやフェアトレードについての情報や話を取り入れることで人権も取り扱った。
清水	6月12日	講座	「ボッチャ体験講座」	Arts and Sports for Everyone	国語の教科書にも出ており、東京パラリンピックで金メダルを取ったボッチャ。体験を通して、パラリンピック、障がい者理解を深める。	障がい者 の人権		(新型コロナウイルス感染拡大のため中止)
清水	11月19日	講座	「ボッチャ体験をしよう」	Arts and Sports for Everyone	国語の教科書にも出ており、東京パラリンピックで金メダルを取ったボッチャ。体験を通して、パラリンピック、障がい者理解を深める。	障がい者 の人権		城北小学校 3年生67人
清水	1月24日	講座	校内研修（人権研修） 「絵手紙で思いを伝えよう」	阿部貴美子さん (清水公民館自主講座講師) 清水公民館社会 教育主事	本研修を通じ、児童向けの絵手紙を作成することで、児童への思いを伝えるきっかけづくりを行う。	子どもの 人権		麻生田小学校 教職員26人 (新型コロナウイルス感染拡大のため中止)
北部	4月13日	講座	心配ごと相談	吉永京子さん 他 (心配ごと相談員)	ひとりひとりの人権に配慮しながら、自分のことや家族のことなど、どんな内容の心配ごとにも相談に応じ、心配ごとを一人で抱え込ませないようにする。	人権全般		地域住民延べ10人
天明	12月7日		熊本市ラブミン人権啓 発作品展一般の部のポ スター・絵、絵手紙の 最優秀賞、優秀賞、特 別賞の作品などの展 示。		作品の鑑賞を通して鑑賞者の 人権意識の向上を図る。	人権全般		
北部	12月15日		熊本市ラブミン人権啓 発作品展一般の部のポ スター・絵、絵手紙の 最優秀賞、優秀賞、特 別賞の作品などの展 示。		作品の鑑賞を通して鑑賞者の 人権意識の向上を図ります。	人権全般		地域住民延べ150人

令和3年度(2021年度)重点事業

(2) 学習成果を生かす

環境づくり

- ① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供
- ② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充
- ③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

学習成果を生かす 環境づくり ■ ■ ■

①ボランティアや地域人材等の養成講座の実施 及び活動機会の情報提供

天明公民館

講座名：南区子どもチャレンジ公民館（「熊本城博士ちゃん」になって、新しい熊本城の魅力を発信）

講師：くまもとよかところ案内人の会

場所：熊本城 他 対象：南区の小学生（4年生～6年生） 期日：10月～12月の土曜・日曜（全8回）

時間： 午後1時半～ 午後3時半 費用：無料



概要

○どのようなねらいがあるのか。

熊本地震後、リニューアルした熊本城天守閣がオープンする今年に合わせて、「南区子どもチャレンジ公民館」の企画として、熊本城の魅力を小学生が再発見するために企画。熊本地震後の復興の象徴として天守閣の修理が完了したので、熊本城を改めて学習する機会とした。

知っているようで知らない身近な熊本のシンボル熊本城。その魅力を深掘りして学習してもらうため日頃からその魅力を観光客などにガイドをして活動している「くまもとよかところ案内人の会」に協力を依頼。熊本城の魅力や歴史をプランナーがよかところ案内人の会を講師に学習。最近テレビのゴールデンタイムで人気の「博士ちゃん」に便乗して「熊本城博士ちゃん」として、プランナーがガイド役にチャレンジ体験する。ガイド本番では、南区の小学生を一般参加者として募集し、プランナーがそれまで学習や練習してきた発表内容を一般参加者の小学生を相手に現地でガイドをする。

こうして、プランナーや一般募集の小学生と、くまもとよかところ案内人の会のガイドの方々が交流することで、熊本城を題材としてその文化や歴史、さらに防災に関する学習や継承の場になればと考える。

○講座の様子

オリエンテーションに始まり、座学や現地学習を含めた事前学習やガイドの練習の場を合計7回設ける。最終回となる8回目はプランナーのガイド体験本番となる。

プランナーが事前学習を通して興味を抱いた熊本城の石垣や櫓のつくりと役割などをガイドするために、それぞれガイドに必要な資料や絵図など創意工夫を凝らして手作り。わかりやすいガイドのノウハウなどもプロのガイドに指導を仰いだ。練習の機会を経て本番では、熊本城の石垣造りや櫓・本丸御殿の役割などを手作りのガイドグッズを巧みに扱い上手にガイドすることができた。参加者からも初めて知ることが多く楽しく学ぶことができたという好評であった。

成果と課題

連携した「くまもとよかところ案内人の会」の方々は、持ち合わせている幅広い知識や組織力、ガイドとしてのレベルが非常に高い団体だった。教えるプロが100人近くに及ぶこの団体はとても人材が豊富で高い能力の人ばかりである。その中から小学生の修学旅行客を専門にガイドを長年行っている方に講師を務めてもらい、プランナーに関わるこの企画を進められた事は、とても大きな力となった。また、この企画に参加したプランナー小学生の歴史やお城に対する興味の高さに驚いた。この両者の意識がマッチングして、熊本城について学習を進める中で、とても意義深い価値ある内容をプランナーが学習しガイドの体験をすることができた。その興味や関心の高さから全8回では時間がまだ足りないくらいであった。

また、天守閣がリニューアルした熊本城だが、それ以外の施設は石垣が崩れたままなど地震の爪痕が残り、まだ完全に修復できていない（全ての修理が終わるのに20年かかるらしい）。そんな修復途中の施設を見学することで被害の大きさを実感できた。城内展示物の中には熊本地震の被害の大きさや防災について描いたすばらしいVR映像の展示もあり、とてもわかりやすかった。参加した小学生にとって5年が経過した熊本地震だが、その被害の大きさや防災の意識を改めて学習できた。

課題は、熊本城を学習する様々な資料は小学生向けのわかりやすい物が少なく、身近に手に入る資料のほとんどは、掲載されている内容や文言がとても難しいものばかりである。そこで今回は、独自で小学生向けのテキストを作成した。しかし、それでも難しい文言などが入るので、その指導をよかところ案内人の会の講師に解説してもらい、小学生でも理解できるように学習をすすめることができた。

学習成果を生かす ② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の充実 環境づくり ■ ■ ■

大江公民館

講座名：おでかけ公民館（アートフラワー講座）

講師：古城トミ子さん 場所：熊本市立出水中学校 対象：中学3年生 期日：令和3年10月13日、27日 11月10日、17日 全て水曜日 時間：午後2時～午後3時45分 費用：無料

概要

○どのようなねらいがあるのか。

◎総合的な学習で水前寺周辺を元気にするねらい

- ・熊本市電の駅にアートフラワーで装飾しお客さんを喜ばせたい。
- ・熊本市電の中にアートフラワーで装飾しお客さんを喜ばせたい

○講座の様子

中学校の生徒からアートフラワー講座をしたいという要望があり、日本フラワー協会熊本支部【古城まり子】さんを講師として派遣し、生徒の要望に応えるべくアートフラワーの準備をして丁寧に指導された。

○成果と課題

～生徒の感想～

- ・アートフラワーは簡単に1つ1つの花を作っているのではなく、それぞれの花や葉に合った作り方をしていかなければならないことがよくわかった。
- ・アートフラワーづくりは大変な作業が必要で、それを体験できたことがとてもよかった。
- ・葉脈まで細部にわたって凝っていることがすごかった。

今回、出水中学校から総合的な学習の主旨を聞き、講師探しから派遣まで大江公民館で行い、学校と生徒と講師をつなぐことができた講座だと言える。講師の派遣回数が4回だったので、事後活動として生徒との交流や継続した取り組みしていくためにあと数回派遣回数を確保できればよかったと思う。



学習成果を生かす ② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の充実 環境づくり ■ ■ ■

秋津公民館

講座名：『ほたる川』調査隊(2021)

講師：小林修さん(環境省環境カウンセラー)、熊本市博物館学芸員、熊本市環境総合センター職員、社会教育主事 ほか

場所：『ほたる川』(河川改修前の鶯川)、鶯川 対象：市民、ほたる川調査隊(令和3年)、うぐいす川探検隊(令和元年・2年) 秋津小学校5年生(令和3年度) 東野中学校サイエンスグループ(令和元年度) 子どもチャレンジ公民館プランナー(小学4~6年、平成30年度)

期日：平成30(2018)年度~平成3(2021)年度 費用：無料

1. 目的(講座のねらい)

住宅街でホタルが飛ぶ(観察できる)環境があること、そのことが地域で思ったほど知られていないようであった。地域のよさの再発見とともに環境保全には継続的な人のかかわりが必要であることを広く知ってもらい、活動を通してボランティアマインドの高揚や地域コミュニティ形成と人材を発掘し組織の形成継続した活動につなげていくことを大きな目標とした。

2. 前年度までの取り組み概要(平成30年度から令和2年度)

(1) 平成30年度(2018年)

① 東区子どもチャレンジ公民館「うぐいす川探検隊」(東区の小学校から10人参加)

6月~翌年3月の間、水生生物観察や水質調査、川遊びなど全15回の活動を行った。

公民館近くを流れる「鶯川」をテーマに、目標を2つ設定(◆鶯川の「すてき」「秘密」を多くの人に知らせる。◆「鶯川」をきれいに・ゴミひろいなど)して活動を始めたが、当初は「ホタル」についての認識はあまりなく、活動場所も「ほたる川」ではなく「鶯川」であった。

6回目の活動時に来ていただいた講師から、「ウチワゼニクサ」という外来植物が繁殖している(特定外来植物として各地で問題となっている「ブラジルチドメグサ」と同じ属で、繁殖力が大きく生態系に影響を及ぼす)ことを教えてもらい、新たな課題として取り組むようになった。

② 「うぐいす川清掃&川遊び」※子どもチャレンジ公民館に参加している子ども達の企画

(平成30年9月15日(土)・約40人参加)

鶯川に繁殖している「ウチワゼニクサ」の除去と川の清掃、その後川遊びをした。





③12月15日(土)「ほたるの生態・幼虫観察」※公民館主催講座

(約15人参加・小学生4人含む)

(12月1日 ほたる川)

※この活動から、対象が場所:通称「ほたる川」とホタルの生態・環境整備(外来植物のウチワゼニクサの除去)に移っていった。

当日は、ホタルの生態について公民館で講師(小林修さん)の話を聞き学習した後、ほたる川に行き幼虫を観察。事前調査(12月1日)では幼虫を見つけることができたが、この日は見つけることができずにその他の水生生物の観察を行った。ホタルの成虫を見たことはあっても幼虫を実際見た経験はないと思われたので、ぜひ見ていただき関心を高めるきっかけになること期待していたが残念であった(ホタルの幼虫を見つけるのはかなり困難であることが分かった)。

(2)平成31年/令和元年度(2019年) ※「うぐいす川」とあるが活動場所は通称「ほたる川」

①6月9日(日)「うぐいす川探検隊」(7人・小学生2人含む) ※公民館主催講座

ホタルの幼虫の餌となる「カワニナ」が増えるように(カワニナの生息環境整えるために)「ほたる川」への牡蠣殻投入を行った(公民館管轄内に在住の牡蠣小屋経営の方から提供していただいた)。メインの活動と共にウチワゼニクサの除去を少し行った。



②7月13日(土)「うぐいす川・ホタルの生息地整備」※公民館主催講座

(8人・小学生1人中学生2人含む)

この活動から、公民館だよりやチラシで地域自然の素晴らしさや、保全のための地域の方の協力を積極的に呼びかけた。これをきっかけにボランティア意識の向上や地域コミュニティの形成につながることも意識した。

本格的に外来植物ウチワゼニクサの除去作業となり、予想していたよりも労力を必要とした

※ウチワゼニクサが繁殖し水面を覆うと日光が届かなくなったり、水の流れが悪くなり泥・ヘドロがたまったり環境が悪くなる。繁殖力が強く、完全に除去するのは不可能に近い。それゆえ定期的な除去活動が必要になる。

※平成18年~25年頃まで、この場所の保全活動を組織されたボランティア団体がされていたが、その活動が現在なされていないこと、組織もなくなっていることを知る。これまで知らなかったこのような地域の課題に気付いたため、無関心ではいられなくなっていった。

☆多くの方のボランティア協力が必要です☆

うぐいす川・蛍の生息地 整備

うぐいす川の蛍が生息しているところ限定(約10m)で、外来植物「ウチワゼニクサ」を取り除きます。！軍手・ごく浅い川に入れる格好、(飲み物持参)で、力を合わせて頑張りましょう！
(半日かけのところでの作業です)

【と き】7月13日(土) 9:00~10:00 (集合: 8:50 秋津公民館 ロビー)

※このままだと水面を覆いつくしてしまいます。

「蛍が見れる環境」
= 自然豊かな恵まれた環境であることを意味します。5月上旬から下旬にかけ、数匹~20匹ほど見られました。こんな素敵な環境に住んでいることを引き継いでいきましょう。



※公民館だより7月号

③9月27日(金) 東野中学校サイエンスコースの活動(サイエンスコースの生徒24人)

東野中学校総合的な学習の時間の「環境」をテーマにしたグループ活動があり、「ほたる川」や水生生物に関する内容については、公民館と熊本市環境総合センターの出前講座(4回)を行う。この日は「ほたる川」で水生生物観察会と外来水草(ウチワゼニクサ)の除去を行った。(生徒は10月の文化発表会でまとめを展示)

水草の除去の後、水底にたまっていた泥を竹ぼうきで掃き環境が改善した。



④12月7日(土) 公民館主催講座「うぐいす川探検隊」

※公民館主催講座(11人・小学生2人含む)

牡蠣殻の投入と水生生物観察を中心に行った。外来植物のウチワゼニクサは、9月27日に中学生と大掛かりに除去したいたためそれほど繁殖していなかった。



(3) 令和2年度(2020年)

令和2年2月22日から新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために公民館利用休止(主催事業の延期・中止)が繰り返され、集まって活動することや見通しをもって計画をすることが困難になった。

昨年度までは単発の活動だった。関心を持って継続して参加する方を期待したがそこまでは至らなかった。ので、事前学習⇒現地学習⇒環境整備活動と一連の活動と連続して関わる人の発掘や養成のねらいも含めて活動計画を立て募集した。

①7月18日・25日・8月1日 「うぐいす川探検隊(2020)」 ※公民館主催講座(12人の参加)

親子2組の参加もあったが天候不順などの影響もあり、継続した参加にはいかなかった。

8月1日の活動の数日前に、周辺の草刈りを秋津3丁目公園愛護会の方(6人)が刈払機でしてくださったおかげで、川の中の清掃に集中できた。

前年の12月7日以来の活動であったので(春から夏にかけて約8か月間何もしていなかったのも)、かなり外来植物のウチワゼニクサが繁殖しており労力を要した。

令和2年度は、感染症の影響でこの1回の活動に終わった。



3. 令和3年度(2021年)の活動

これまでの活動・取組みは単発の呼びかけて、継続した複数人の参加、何らかの活動組織の形成には至っていなかった。そこで、年間を通した活動として募集した。

(1)「『ほたる川』調査隊(2021)」 ※公民館主催講座

①年間日程(公民館だよりなどで日程案内)

- ・4月下旬 講座「知ってびっくり!『ホタルの生態』豆知識」
- ・5月 各自都合のいい時にホタル観察

(飛んでいた数をアンケートフォームに入力)

※この活動は公民館だよりや現地の立て看板でも周知し、調査隊への申込の有無にかかわらず、「住民参加型実態調査」とした。

- ・7月 『ほたる川』清掃活動(1回目)
- ・年間を通して「野菜くず入れ」(カワニナの餌となる。繁殖のため)
- ・12月 『ほたる川』清掃活動(2回目)

②活動の概要をPRした動画の作成「『ほたる川』調査隊2021」(ホームページに掲載)



<https://www.youtube.com/watch?v=Dx03sBtGj38&feature=youtu.be>

(2) 4月・5月の活動

(調査隊としては、10人・うち家族2組の申込)

- ・関心と今後の活動意欲を高めるために次の活動を行った。
- ・4月29日の主催講座「知ってびっくり!ホタルの生態豆知識」は感染症の影響で中止。
- ・5月の観察では、実際にホタルを見ることができた模様。調査数(アンケートフォーム記入)は住民の方の参加も含め80件のデータが集まり、調査結果は公民館ホームページに掲載中。

(3) 秋津小学校5年生総合的な学習の時間(テーマ「秋津の環境」)への出前講座

- ・ホタルが舞う環境が身近にあることと外来植物(ウチワゼニクサ)に覆われ環境の保全には人の継続したかかわりが必要であることを一緒に考えた。
- ・外来植物(水草)を取り除きたいという行動につながり、7月14日に5年生がクラスごとに水草の除去活動を行った。



(4) 「ほたる川」調査隊(2021)としても、7月18日に環境整備・水草除去活動を行う。

- ・再度公民館だよりで呼びかけたので、一般の参加やCSRとして保険会社の方(4人)からの申し出もあった。
- ・この日は、数日前に5年生で行ったことを学校だよりで紹介してくださったことや子ども達の活動に関心を持つ保護者の参加があるだろうと期待していたが、1件のみの参加で大きく期待が外れた。関心を高め行動につなげていくことがかなり難しいことを実感させられた。
- ・前年の8月以来1年間整備をしていなかったのかかなり水草(外来植物のウチワゼニクサ)が繁殖し水面を覆っていた。7月14日と7月18日の活動はこれまで以上に労力を要した。改めて、年間数回除去活動を行うことで、1回の作業は楽になり、また、川に与えるダメージも少なくて済むので、組織的な継続した活動の必要性を感じた。

※7月14日と18日の活動の前に前年同様、秋津3丁目公園愛護会の方に周辺の草刈りをしていただいていた。※除去した水草は、土木センターに依頼して処理してもらっている。

(5) 12月4日 環境整備・水草除去活動(2回目)

(13人・小学生5人含む)

・ほたる川調査隊(2021)の参加者の方へメールで今回の日程をお知らせしていたが、都合が悪かったのか、もしかしたら前回の活動が予想以上にハードだったためか、調査隊からの参加は2人であった。関心を持った方の継続的な参加、組織的な取り組みについて方法・方針を転換する必要を感じた。(しっかり連絡ができていなかった反省もある)

・今回は次へつながるのではないかとされる次の2点があった。

一つは、調査隊参加者の一人の方が、自身が別の環境保全で活動している「水源ネット」という団体のメンバーを2人連れてこられたこと。もう一つは、秋津小男性保護者の会「笑男会」に呼びかけたところ3人の参加があったことがある。どちらも今後も継続した協力が見込めることが大きい。

・7月に大掛かりな除去作業をしてから約4か月であったので、作業的には30分以内で終了し、年間数回の作業で1回の作業が負担なくできることがよくわかった。

・作業の後は、事前に捕まえておいた(捕獲に延べ5時間要した)ホタルの幼虫の観察、他の水生生物の観察をし、住宅街に残る豊かな自然を参加者で共有できた。



4. 成果と課題

平成30(2018)年度の子どもチャレンジ公民館で子どもたちと活動を進める中で気づいた『ほたる川』にかかわることは、地域の課題であり、これへの取り組みは、その過程でボランティアの育成や地域のコミュニティ形成につながる可能性を持った課題と社会教育主事の観点から継続して取り上げた。

「『ほたる川』の保全活動をしていた団体までなくともこれに代わるような簡易のグループ(年に数回の負担のない活動を持続的に行うグループ)のようなものが新たにできないか」と試行錯誤してきたが、結果としてできておらず、また地域の課題としての広がりに至っていない。

これまでは組織作り(グループ作り)に注力した感があったがそれは難しく、既存の組織(例えば前述の「公園愛護会」や「水源ネット」「笑男会」)の活用つまり公民館として「つなぐ役割(連絡・調整)」を担っていくことを明確にし行っていたほうがよい。

これまでとあまり変わらない活動であるが、活動を行う際は公民館だよりなどで周知し、『ほたる川』のある環境のよさや課題、活動の必要性を呼びかけ一般の参加も募ってく。加えてこれまでにつながった人や団体と小さな活動を続けていきたい。

学習成果を生かす ③ 地域の学習グループやボランティア団体の 環境づくり ■ ■ ■ 活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

飽田公民館

講座名：Zoomおはなし会

講師：Zoomおはなし会 場所：飽田公民館 対象：就学前の幼児と保護者

期日：令和3年9月18日（土） 時間：午前11時～正午 費用：無料



概要

Zoomアプリを用いて自宅に居ながら公民館の講座に参加できる機会が持てるように、「Zoomおはなし会」を企画した。

○どのようなねらいがあるのか。

コロナ禍にあって、マスク着用やワクチン接種、外出制限などの感染予防対策が広まる中、就学前の幼児と保護者に向けてZoomおはなし会を配信した。家庭に居て公民館講座に参加いただき、親子で楽しむ機会となることをねらいとした。

○講座の様子

直接つどうことが敬遠される中で、画面上に参加されている方を互いに認識でき、見えない糸で繋がっている感覚がある。また、おはなし会の内容は、幼児にとっての楽しみや驚きを感じられる内容となっており、楽しみながら見て聞いて学ぶことの体験を得ることができる。

○成果と課題

コロナ禍において直接公民館へ来ていただけない状況がある中、自宅に居て幼児と保護者に視聴参加いただけることは、たいへん意義ある事だと考える。参加している子どもの表情も見ることができ、笑顔に成果を感じることができた。

課題としては、施設のWi-Fi環境の弱さや使用制限・機材の不足などがあり、通信までの設定にも課題がある。また、童話や紙芝居、パネルシアターの著作権許諾申請等の事前確認に時間がかかり、早めの準備とリハーサルが必要であった。

学習成果を生かす ③ 地域の学習グループやボランティア団体の 環境づくり ■ ■ ■ 活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

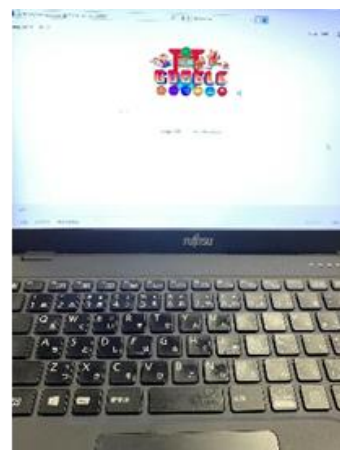
花園公民館

講座名：PCスマホ何でも相談室～検索の仕方を学ぼう～

講師：安田 早苗さん（PCインストラクター）

場所：花園公民館ホール 対象：どなたでも5人 期日：毎月第3木曜日

時間：午前10時～正午 費用：無料



概要

○どのようなねらいがあるのか。

最近スマホに買い替えた人、PCを扱うのに慣れていない方を対象に実施。

検索を自分でできるようになることで、主体的に学ぶ姿勢を身に付けてもらうとともに、周りの人々との交流を図る。地域コミュニティが出来上がるきっかけとなることを願う。

○講座の様子

5人ずつの輪になって距離を保って座ってもらい、講師の用意した検索についてのプリントを見ながらグーグルの使い方を試した。

今回は社会教育主事講習研修で来られた先生方がおられたので、一緒に参加してもらい、輪になって座った人たちと検索の仕方を一緒に体験してもらった。

思いつくキーワードをもとに調べ物に取り組んだ。参加者が検索方法について一緒に確かめながら試したり、参加者同士でやり取りしながら検索の方法を習得していった。どうしてもわからないときは講師に尋ねることもできるようにして、不安の払拭に努めた。

全く知らない者同士であったが、お互いを尊重しながら知っていることを教えあったり尋ねたりして、和やかな雰囲気の中で学ぶことができた。

○成果と課題

講義形式の講座から離れて話し合いながら自分で答えを見つけていくスタイルはこれからの学びで大切になってくると思う。細分化されたニーズに自分で適応して対応していくことが求められる生涯学習社会において、自ら学ぶ姿勢の基礎になるからだ。

今回の講座では、検索のエッセンスについて資料を確認しながら、受講者同士がわからないところを隣の人に確かめたり、教えあったりする姿が頻繁にみられた。知識を深めたり、人と人が結ぶ場として機能したりしていたことは成果だ。

課題としては、受講人数の少なさ。話し込むためには、あまり大人数では開催できない。

少ない人数で、開催する頻度を上げるといった対応が求められるが、より多くの講師と期日の設定が必要になる。若者と高齢者を結ぶ機会にできればいいのだが、コロナ禍においては、それは難しい。

様子を見ながら実施していきたい。

学習成果を生かす ③ 地域の学習グループやボランティア団体の 環境づくり ■ ■ ■ 活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

幸田公民館

講座名：自分軸ママで子育てを楽しもう。

講話&座談会&筆ペンで年賀状の書き方のコツ（家庭教育学級）

講師：横田 久世 さん 場所：幸田公民館 対象：幸田家庭教育学級 生

期日：12月10日（金） 時間：午前10時～正午 費用：無料

概要

○どのようなねらいがあるのか。

2016年4月1日に障害者差別解消法が施行され、障がい者への差別の禁止や、合理的配慮の提供が求められるようになり、約5年半が経過した。しかし、施行後に相模原障害者施設殺傷事件(以下、相模原事件)が生じていることから、差別・偏見の解消や合理的配慮の普及に関しては、まだ多くの時間を要するといえる。

2020年東京オリンピック・パラリンピックは、今後の日本社会を「共生社会を目指す大会」として位置づけた。本市では、あらゆる人権課題について、誰もが親しみやすく、わかりやすく感じられる啓発に努めていることから、障がい者への理解を深めていく必要性を感じた。価値観の多様化を迎えた現代において、共生社会を担うに必要な担い手の育成していきたい、というねらいのもとに企画した。

○講座の様子

今回は、幸田家庭教育学級に横田久世さんを講師に招き「自分軸ママで子育てを楽しもう。講話&座談会&筆ペンで年賀状の書き方のコツ」というテーマで取り組んだ。横田さんは、夫と人で暮らすごく普通の主婦だった。2017年12月高熱と激しい脚の痛みに襲われた。突然襲った病は、「四肢末梢」に壊死をきたす感染症「電撃性紫斑病」だった。2018年1月5日に両足切断、1月15日両両指を切断。命を救うための苦渋の選択だった。「どうやって生きていけばいいのか。」受け入れがたい現実を突きつけられ 2020年2月16日熊本城マラソンに競技用義足にて フルマラソンに挑戦された。現在は、指なし筆師ごわすさん筆詩人 水墨画初心者としてYouTube開設講演活動されている。

講演で、「今を生きていくうえで、「考え方として手の指を失ったことは、不自由ではあるが、そのことは不幸ではない。心は無限に自由だから。どこまでも学ぶことはできます。」と参加者に語りかけられていた。参加者が、新たな視点を獲得する学びの機会となった。横田さんと年賀状の裏書きを一緒にすることで、指がない状態で筆を持ち、文字を書かれる様子を目の当たりにして、参加者は人間の可能性を実感する時間となった。

○成果と課題

「残されたものを最大限に生かせ」のパラリンピック提唱創始者の言葉の意味をとらえる機会となり、人生の歩みについて考えることができた。参加者からは、「障がい者」に対しての「不具合の現実」を知ることにより、どうすれば不具合を解消できるのか、考える機会ともなりました。等の感想があげられた。

講師からは、障がいを持ったことで、この場所に来て、みなさんと会えていい思い出になりました。」とあった。

課題としては、今までこのような取り組みは講演会等でおこなってきたが、新型コロナ禍でもあり参加者数が少なかったので、zoomやyoutubeを使ったオンラインを使って、継続的に取り組み、更なる参加者が増えるように充実を期していくことだと考えた。



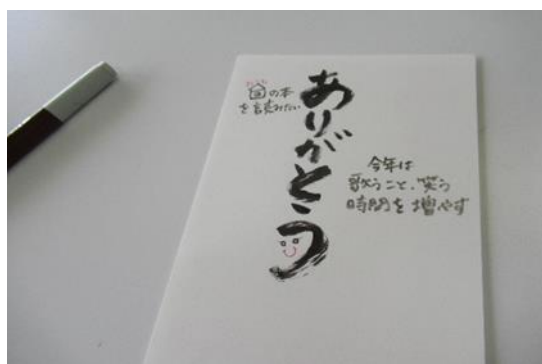
講演の様子



参加者のリクエストー文字を書く様子



参加者のモットーにしている文字



講演者が大切にしている言葉

令和3年度(2021年度)重点事業

(3) 世代間交流の促進

- ① 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取り組み
- ② 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催

< 中央公民館 >

期日	令和3年(2021年)12月18日(土)
時間や期間	午後1時半～午後4時半
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	中央公民館ホール
内容	大学生が小学生との異年齢同士で遊びを通したプログラムを企画し実施する。講座名は「熊大生のメイクフレンズと世界に一つだけの手作り衣装で大変身」下地に大きいビニールで、それぞれに折り紙やモール、スパークル、綿などを貼り付け制作。出来た衣装でファッションショーにチャレンジ。 対象：小学3年～5年生 募集：12人 指導：熊本大学の学生（メイクフレンズ）
成果と課題	・学生のメイクフレンズが楽しい交流企画（遊び）を考え小学生と一緒に活動を展開。 ・大学生にとって企画、運営力をつける絶好の機会と主体的な学びの機会になったようだ。また、公民館としては、コロナ禍でも学生が交流を深めるきっかけとなる場を提供が出来たと思う。また、参加してくれた小学生は楽しい時間を過ごすことが出来たのではないかな。



< 五福公民館 >

期日	令和3年(2021年)12月5日(日)
時間や期間	11/27(土)プレ活動実施。12/5(日)10:00～12:00と13:30～15:30の2回に分けて本番活動実施。
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	五福まちづくり交流センター(公民館)4階多目的ホール
内容	熊本大学メイクフレンズ五福ホール班との共同講座を実施。 活動名「世界に一つだけのキラキラクリスマスノードームを作ろう！！～一足早いクリスマスを楽しもう～」 五福公民館担当校全児童にチラシを配布し、12名を募ったが2倍程度の応募があったため、2回実施を協議の上決定。 クリスマスの趣向を凝らしたコスチュームやグッズ、寸劇やゲームを準備して行った。子どもたちもスノードームのおみやげもでき、「楽しかった」と笑顔で帰っていた。学生にも4月から教壇に立つ者もあり、自信を増やして子どもたちに会うことができそうと喜んでいた。
成果と課題	新型コロナウイルスの感染状況に一喜一憂しながら今年度は活動してきた。特に上半期は準備しては、中止となる回が続いた。10月になって急遽はじめられたが、これについては、学生の準備の周到さがすばらしかった。やれると分かるとすぐに連絡し、実施の手はずを整えていた。昨年全くできていなかった学年もいる中で、学年を問わず真摯に活動に向き合っている成果が出ていた。今季2回実施できていたが、リピーターの児童も複数おり、また来たい！！といううれしい感想を残してくれていた。学生との活動については、今後も継続し、子どもたちの休日の居場所づくりを推進していきたい。
 	

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 託麻公民館 >

期日	令和3年(2021年) 11月20日(土)
時間や期間	14:00~15:00
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	託麻公民館 ホール
内容	ルーテル学院大学の大学生と先生のが講師となって、小学生を対象とした「英語で遊ぼう」というイベントを開催。 講師のケビン先生の楽しいお話と、大学生によるゲームやクイズ、出し物等を行い、子どもたちも楽しそうに参加していた。
成果と課題	講座の最初に「英語が好きな人？」と聞いた時には一人か二人しか手が挙がらなかったが、終わるときに「英語が好きになった人？」と聞いたら全員が勢い良く手を挙げた。子どもたちもとても楽しそうであったし、大学生も楽しかったと言っていた。今後もこのような活動を積極的に行っていきたい。



< 秋津公民館・東部公民館 >

期日	令和3年(2021年)10月10日(日)開講式 ～ 令和4年(2022年)2月5日(土)閉講式
時間や期間	
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	秋津公民館 ホール、会議室
内容	「東区子どもチャレンジ公民館」※(今年度の担当館：秋津)を熊本大学メイクフレンズと連携して実施。5月に広報、10人の小学生プランナー(6つの小学校の4～6年生)が応募。当初6月20日開講式の後、夏活動、秋活動、冬活動の年3回のまとまった活動を予定していたが、感染症の影響で次の日程で1回の活動となった。 1. 10月10日(開講式) 2. 10月17日(レクリエーション、班編成) 3. 10月31日(会議①) 4. 11月7日(会議②) 5. 11月14日(会議③) 6. 11月28日(イベントプレ活動) 7. 12月5日(イベント本番：小学生プランナー企画「みんなでワイワイクリスマス」(3つのレクリエーションの企画運営)対象1～3年生、参加者30人 8. 閉講式 2月5日(予定) ※「子どもチャレンジ公民館」は、希望する子ども達が集まり、主体的に様々な企画を考え運営していく活動。
成果と課題	・制約のある中にもかかわらず、メイクフレンズの学生は活動の・目標や内容を事前に話し合い計画を立て、プランナーの意見が実現するような支援や言葉かけができ、大変充実した活動ができていた。イベント本番で、プランナーが進んで自分の役割を果たし、いきいきと積極的に活動している様子からもうかがえた。 ・学校の枠を超えた関わりの重要性を再確認した。



開講式・プランナー会議



12月5日 イベント本番

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 西部公民館 >

期日	未定
時間や期間	未定
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	西部公民館 会議室
内容	西部公民館では目と鼻の先に熊本県立熊本西高校がある。西高にはボランティアサークルがあり、地域への貢献をしたいと考えられているとお聞きした。そこで、公民館で行っている「パソコンヘルプデスク」とコラボして「スマートフォンヘルプデスク」を計画しようと考えた。対象として考えているのは主に高齢者である。
成果と課題	△結果としては新型コロナの感染拡大の影響で、高校生を呼ぶというところまで話が進んでいない。 △高校生を呼ぶとしたとき、主催講座扱いで、多少なりとも謝礼金を用意したほうがよいのではないか？と、課内で話題になっていた。 △定期的に実施するほうが地域の方々にも認知されやすいと考えるので、例えば毎月第3土曜日午前10時～正午といった形での開催を考えている。 △西高の先生との顔合わせだけしか済んでいないが、次年度の計画を立てておきたい。

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 花園公民館 >

期日	令和3年12月4日～1月7日
時間や期間	1か月程度
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	花園公民館、松尾西小学校跡、本妙寺、松尾梅洞公園他
内容	西区子どもチャレンジ公民館での映画作り。子どもたちと共に大学生や高校生も撮影のスタッフとして参加。「西区で映画を作る」をテーマに、取り組みの中で西区の良さを見つけたり人との交流を持ったりする機会を生かして、普段できない体験を子どもたちに味わわせる。
成果と課題	○普段見ることのない体験ができたことは好奇心を刺激する興味深い取り組みだと思う。たくさんの人のかかわりで映画は制作していくことをみんなが感じることができた。 △長い時間をかけて取り組むことで地域の活性化にもつながる様々なイベントの創造にもつながるが、短い期間ではそれが難しかった。更なる工夫が必要。



【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 幸田公民館 >

期日	令和3年(2021年) 10月23(土)23(日)30日(土)
時間や期間	小学3・4年生(午前10時～午前11時) 小学1・2年生(午前11時～正午)
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	幸田公民館 A会議室
内容	「英語であそぼう」の講座を10月23日(土)10月24日(日)10月30日(土)の3日間開設した。熊本県立大学の英米学科の協力を得て、取り組みたい学生(教員免許取得済)が、趣旨を理解し、準教授の指導の下、意欲的に取り組んでくれた。 子どもの実態に応じて、学ぶ内容について工夫して、名札カード作りや基本的な会話のやり取りをペアでおこなったり、参加者が楽しめるよう宝探しゲーム・YouTube視聴(ハロウィンの起こりについて)を行った。
成果と課題	成果は、学生と児童の年令が近いので、参加者が気軽に楽しみながら取り組んでいた。英語を始めて習う児童もいれば、英語を既に習っている児童もいたり実態は違ったが、互いに知的刺激を受け、学び合いができたのも成果であった。 課題として、小学校3年生から、学校での英語活動が確保されていることから小学3年生以上の応募が少なかったため、募集対象年齢を年長児から対象にすることも検討していきたい。また、外国人留学生を講師に加えるなど、本物の英語にふれる機会を創出することも今後の検討課題である。
 【英語であそぼう(3・4年)】の様子 (自己紹介カードを書いている様子)  【英語であそぼう(1・2年)】様子 (好きな食べ物を伝えている様子)	

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 龍田公民館 >

期日	令和3年(2021年) 10月30日(土)
時間や期間	午前10時～正午(2時間)
取組の重点	☒ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☐ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	龍田公民館 A会議室
内容	カードやボードを使った「アナログゲーム」を遊ぶことを通して、人と直接コミュニケーションをとることの楽しさや、ゲームのルールを楽しむことを体験する。講師として、龍田公民館を利用している「アナログゲームの会 ドラゴン」のみなさんに協力をお願いした。小学生にもゲームのルールが伝わりやすいよう、実際に一緒にゲームをしながら詳しく説明した。2時間の時間に3種類のゲームの紹介を行い、最後に自分のお気に入りのアナログゲームを選んで楽しんだ。
成果と課題	ゲームを理解し楽しむ中で、参加者どうしのコミュニケーションが増え、最初緊張気味だった子ども達にも次第に笑顔が増えた。アナログゲームの楽しさを十分伝えることができた講座だった。一方、ゲームの勝敗が、ある参加者に偏ってしまい途中でやる気をなくす場面があった。すぐに席をかえて対戦相手をかえることで対応した。できるだけ勝敗が偏らないよう、班の構成メンバーに配慮する必要があった。



【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 大江公民館 >

期日	令和3年(2021年) 10月13日、27日、11月10日、17日 全4回 全て水曜日
時間や期間	14時00分～15時45分
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	熊本市立出水中学校
内容	出水中学校から総合的な学習で、「地元水前寺を元気にするプロジェクト」の1つとして、水前寺を近辺の施設を動画に撮って一般市民に照会し、水前寺周辺をもっと知ってもらいたい。その動画に手話を挿入したいということで、手話の講師を紹介した。
成果と課題	～生徒の感想から～ ・手話は完璧にできなくても、相手に「伝えたい」という気持ちがあれば大丈夫だということがわかった。 ・手話の中には私たちが普通に会話する時の手ぶりや表情などが手話の元になっているということがわかった。 ○生徒たちが楽しいそうに手話の勉強をしているのがとても印象的だった。



【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 河内公民館 >

期日	【河内小】 令和3年(2021年) 7月15日 (木) 【芳野小】 令和3年(2021年)10月19日 (火)
時間や期間	【河内小】 午前9時35分～10時20分 【芳野小】 午後1時55分～3時35分
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	【河内小】 熊本市立河内小学校 【芳野小】 熊本市立芳野小学校
内容	【河内小】 地域の石碑について 講師：河内公民館職員 【芳野小】 芳野地区の文化財について 講師：熊本市博物館職員
成果と課題	【河内小より】「数多くの写真や石碑に描かれている言葉を子どもたちにも分かりやすい言葉にかえて説明していただいた。子どもたちにとって驚きが多く、当時の人々の大変さや苦労や思いも知ることができ、より深い学びになった。」 【芳野小より】「新型コロナウイルス感染症の影響もあり校外学習が難しい状況なので、来校してもらって写真や実物を使って説明してもらえたのはとても貴重な体験になった。」 貸館休止になってから、夜間の職員と河内の歴史や地理について調べているところに河内小から依頼が来たので、夜間職員一人と二人で対応することにした。更に関連する記事を調べ、実際に現地に行って写真を撮りパワーポイントにまとめた。時間と労力がかかったが、これから子どもたちに使ってもらえる財産ができたことはよかったと思う。地域の歴史について話をしてくださる方をあまり知らないの、人材を発掘・育成する必要がある。(下の写真は河内小の様子)
 	

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 南部公民館 >

期日	令和3年(2021年) 11月21日(日)
時間や期間	午前10時～正午
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	大慈禅寺 坐禅堂
内容	大慈禅寺は、古くから曹洞宗の本山として人々の信仰を集めている。梵鐘は国指定重要文化財、宝塔等が県指定重要文化財や境内自体も県指定史跡である。今回は、佐藤泰道住職の協力のもとコロナ禍の中において坐禅体験講座の希望を受け入れていただき、参加対象をどなたでもということに設定し、小中学生の参加を期待した講座として企画。 坐禅の組み方の解説を含めた大慈禅寺の歴史等の講話を聞き、坐禅堂での坐禅体験、その後に参加者みなさんでお粥膳をいただくという内容で実施した。
成果と課題	コロナ禍ではあったが、20人の募集に対して24人の参加を受け入れていただき、それぞれに貴重な講話や坐禅体験を満喫されていた。お粥膳をいただくことも修行の一つとの話に「全てが修行、なるほど」と感想を述べられていた。 残念ながら小中学生の参加はなく、期待していた結果は得られなかった。しかしながら講座としては、「是非来年も」との声が上がっていた。地域の文化財に触れる機会を大事にしたいので定例化できればと考えている。
  ※ 坐禅堂内は撮影禁止のため坐禅体験時の写真はありません	

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 飽田公民館 >

期日	令和3年(2021年) 12月15日(水)～ R4年 1月19日(水)
時間や期間	12/15～1/19 午前10時30分～午後12時10分 全4回
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	飽田南小学校 6年教室
内容	小学校卒業を前に卒業記念製作を熊本市内在住、おばけの金太の製作者である人形師 厚賀新八郎さんを講師として、「夢獅子づくり」を行っている。卒業生の将来の夢を獅子頭製作に込めて、牛乳パックを土台に紙粘土を使っの製作である。全員が講師の話をしっかりと聞き、全4回の工程で型作り・色つけ・仕上げの製作作業を行う。
成果と課題	おでかけ公民館講座としての実施であり、学校から公民館への依頼を受けて公民館が先方への依頼を行う形となる。 昨 年から二度目の依頼で学校としても年間行事に組み込まれており、学社協働の事業としての位置づけを得られたと思う。 希望 実施日を学校と講師の両方に聞いての調整となるので、複数回の実施期日や時間調整が必要となった。



【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 南区 6 公民館（担当館：天明） >

期日	令和3年(2021年) 10月～12月
時間や期間	午後1時～3時
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	天明公民館会議室 及び 熊本城
内容	熊本地震後、リニューアルした熊本城天守閣がオープンする今年に合わせて、「南区子どもチャレンジ公民館」の企画として、熊本城の魅力を小学生が再発見するために企画。熊本地震後の復興の象徴として天守閣の修理が完了したので、熊本城を改めて学習する機会とした。熊本城の魅力や歴史をプランナーがよかこ案内人の会を講師に学習。最近テレビのゴールデンタイムで人気の「博士ちゃん」に便乗して「熊本城博士ちゃん」として、プランナーがガイド役にチャレンジ体験する。ガイド本番では、南区の小学生を一般参加者として募集し、プランナーがそれまで学習や練習してきた発表内容を一般参加者の小学生を相手に現地でガイドを行った。
成果と課題	連携した「くまもとよかこ案内人の会」の方々は、持ち合わせている幅広い知識や組織力、ガイドとしてのレベルが非常に高い団体だった。教えるプロが100人近くに及ぶこの団体はとても人材が豊富で高い能力の人ばかりである。その中から小学生の修学旅行客を専門にガイドを長年行っている方に講師を務めてもらい、プランナーに関わるこの企画を進められた事は、とても大きな力となった。また、この企画に参加したプランナー小学生の歴史やお城に対する興味の高さに驚いた。この両者の意識がマッチングして、熊本城について学習を進める中で、とても意義深い価値ある内容をプランナーが学習しガイドの体験をすることができた。
 	

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 富合公民館 >

期日	令和3年(2021年) 4月～令和4年(2022年) 3月
時間や期間	子ども舞踊
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	富合公民館 軽運動室
内容	地域（近見在住）の花柳流講師花柳みちしゅう先生による年間の日本舞踊講座。 年中生から高校生まで15名の参加。年度末には富合ホールにて発表会。
成果と課題	幅広い年代の子どもが参加しているので、それぞれが刺激になって意欲が高まっているようである。女性的な踊りは男子生には抵抗が大きいようである。部屋の定員がコロナで決まっているので、保護者などは外で見る形になっている。新規生が増えてほしいのと、発表の機会をもっと増やしたいところである。また、若干レクリエーション的な気持ちで参加したり、運営されていたりするので、初心者向けなので仕方ない面もあるが、踊りの本質を追求される姿勢がもうちょっとあってもいいかなと個人的に感じている。子どもたちは楽しそうに参加している。

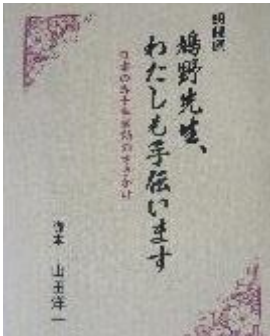
< 城南公民館 >

期日	令和3年12月26日（日）
時間や期間	午後1時半～3時半
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	城南公民館 工芸室
内容	塚原歴史民俗資料館及び城南児童館との協働企画として講座を設定。私たちの先祖が生きた古代に興味を持ち、城南地域の文化財である塚原古墳公園をより楽しむように親子でまがたまを作る活動を行った。 まず塚原古墳公園・歴史民俗資料館の紹介やまがたまの用途など古代の様子についての学習をし、古代人の生活に思いを馳せる時間をとった。その後、親子それぞれ「ろう石」をまがたまの形に削り、磨き上げて、染料につけて色をつける作業を行った。最後にひもを通して世界にひとつだけのまがたま制作を終えた。 （親子8組16人参加）
成果と課題	○「また作りたい」という感想が多く、参加者が満足する講座となった。また資料館はもちろん児童館とも共催することで、役割分担ができ、それぞれの良さを生かすことができた。資料館の学芸員からも資料館・古墳公園の紹介ができたので、城南地域の文化財を詳しく知ってもらう機会となった。 ●コロナ禍で人数制限があったため、少人数の講座となった。現地で開催すると実際の古墳なども見れ、さらに有効だと思われる。



【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 清水公民館 >

期日	令和3年(2021年) 12月 4日(土)
時間や期間	午前10時~11時
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	清水公民館 第1研修室
内容	郷土文化財について講座を開催したことがなかったが、せっかくの機会ということで清水地域の色々な文化財について調べてみた。しかしながら、ネットで調べたり、地域の方・まちづくり班・自治会長等に聞いてみたりしたが、小・中学生にも分かる、また講師が居る清水地域の文化財はなかなか見つからなかった。 そこで、館長に途中経過を兼ねて報告を行ったら、先日清水地域に昔住んでいた医者「鳩野宗巴」の本の紹介を受けたということ。日本赤十字社の前身の博愛社よりも先に戊辰戦争・西南の役で、敵味方関係なく傷ついた兵士・町民を助けていた医者の本だった。 そこで本の作者の方を講師に招き、清水地域で赤十字活動の先駆けとして活動した偉人として、講座を企画した。講師と打ち合わせをし、本を基に講座用資料を作っていただいた。その資料に公民館でも写真や情報等を加えて、「鳩野宗巴」の講座を開催した。 元々子どもたちに劇をして欲しいと作った本。講座の最初に公民館でボランティアで読み聞かせをしていただいている「語り手の会」の読み聞かせで始まり、講演を行った。
成果と課題	○清水地域の郷土文化財に相応しい人物を見つけ、講師を見つけ、講座開催できるまで何とか企画・実施することができた。 ○元は若い方に伝えるための劇用の本。清水公民館でボランティアで読み聞かせを行っている「語り手の会」と連携し、本の読み聞かせから講座を開始した。 ○「鳩野宗巴」に関する動画を作成し、講座後も普及に努める。 △郷土文化財の定義の幅、講座に適した文化財が地域にあるかに大きく左右される。 △今回は講座で終わったが、今後ゆかりがある小学校に「鳩野宗巴」のことを伝え、広めていきたい。 △郷土文化財に興味がある方が地域に居られるか、また小中学生と連携となると、「肥後ちゃんかけごま」等、体験型講座の方が受け入れやすいのではないかと感じる。
   ①読み聞かせで講座開始 ②「鳩野宗巴」の講座 ③講師自費製作の朗読劇本	

< 北部公民館 >

期日	令和3年(2021年)11月20日(土)
時間や期間	午後5時半～7時
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	熊本市寂心緑地公園
内容	熊本市光のマスタープランに基づき、地域資源等の照明演出を支援する「ライトスケープ・キャラバン(夜間景観実証実験)」として県の天然記念物「寂心さんの樟」のライトアップがなされ、地元の北迫自治会及び北部まちづくりセンターの主催で「寂心さんの樟を囲んで」の夜間ライトアップイベントが行われた。 その中で、地元自治会である北迫地区在住の小中学生、中学生を中心に地域の方々に対して、寂心さんの大樟に関するお話を北部公民館の主催講座の講師で、熊本地名研究会の北部地区在住の藤本博さんからお聞きした。 日中は寂心緑地公園で遊んだ経験はあるものの、夜間、ライトアップされ、いつもとは違った神秘的な雰囲気の中で、お話を聞き、ふるさとの誇りである寂心さんの大樟についての愛着や誇りを更に高めることができる内容であった。
成果と課題	○地元の北迫在住の小・中学生がふるさとの誇りである「寂心の大樟」に関する話を地元北部地区在住の方から詳しく教えていただく機会を得て、今まで以上に「寂心さんの大樟」やふるさとについて愛着や誇りを持つことができた。 △今回は市のイベントとタイアップして行ったが、これから継続して実施していくために実行委員会を組織する等、継続に向けての工夫が必要である。



ライトアップ前の寂心さんの大樟



ライトアップされた寂心さんの大樟



大樟根元ステージで寂心さんについて講話

【重点事業(3)】 世代間交流の促進

< 植木公民館 >

期日	令和3年(2021年) 11月 27日(日)
時間や期間	8:30~12:30
取組の重点	☐ 大学生等の若い世代が公民館活動に関わる取組 ☒ 郷土文化財制度等と連携した小中学生を対象とした地域文化財関連の講座等の開催
場所	田原坂資料館及びその一帯
内容	植木町の歴史ある「田原坂ウォークラリー」だが、平成28年度からは、田原小学校児童によるボランティアガイドも参加し、好評を得ている。6年生が美少年姿の衣装をまとい、チェックポイントの場所で、参加者に名所・史跡の説明をするのである。当日までの学習において、田原坂資料館や学校で事前学習を行うが、その時に、「田原坂ガイドの会」の協力を得ている。植木公民館での主催講座「植木の史跡・名所の歴史を学べ」の受講生でもあり、講師も兼ねる方々である。郷土の歴史に関心を持たせ、郷土を誇りに思う人材の育成に努めている。
成果と課題	子どもボランティアガイドの活動も6年目になる。子どもたちはこの経験をすることで郷土理解や郷土愛の育成につながっているものと思われる。また、植木公民館の主催講座「植木の史跡・名所の歴史を学べ」(全7回)に関与する方々が、世代間交流の促進に少しでも役立つことを願っている。無理なく継続した取り組みに今後していきたい。
	

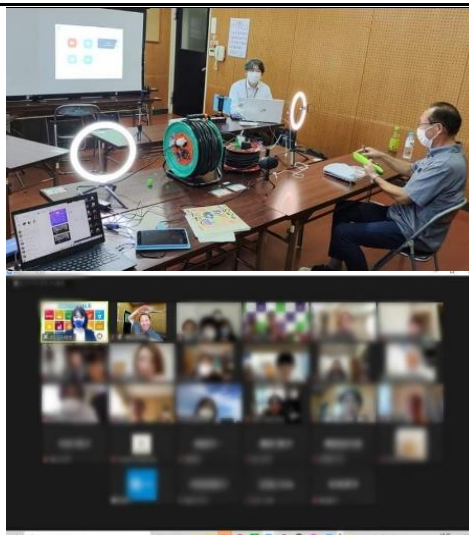
(4) 新しい生活様式に 適応した事業の展開

- ① 公民館オンライン講座(動画配信)の実施
- ② デジタルディバイド(インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差)対策を含めたICT講座の実施
- ③ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 託麻公民館 ① >

日時	令和3年(2021年)①7/7 ②8/9 ③7/22 ④7/24 ⑤8/4 ⑥8/12 ⑦8/18 ⑧9/8 ⑨9/11 ⑩9/17 ⑪9/29 ⑫10/17 ⑬10/17 ⑭10/29 ⑮11/25 ⑯12/3 ⑰12/23⑱1/26
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたＩＣＴ講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	託麻公民館（オンライン開催）
内容	①SDGs基礎講座 ②読書感想文の書き方講座 ③あそびのタネを育てよう！ ④親子料理教室 ⑤SDGs講座② ⑥オンライン恐竜教室 ⑦絵画教室 ⑧SDGs講座③ ⑨SDGs×フェアトレード ⑩防災について考えよう ⑪いのちをいただくお話し ⑫ファシリテーショングラフィック入門 ⑬くまもと「水」検定養成講座 ⑭「お金の学校」オンライン勉強会 ⑮聴き方伝え方講座 ⑯心と体の健康講座 ⑰救急法を学ぼう ⑱SDGs相談会 ⑲おでかけ公民館「公民館からの中継」 双方向コミュニケーションツールであるzoomを使って、オンラインで開催した。⑨は多様な団体 と連携して実施し、160名近い参加があった。⑫と⑰については、リアル参加とオンライン参加 の選択ができるハイブリッドで開催した。⑲は公民館見学に來れない小学2年生のために公民館 からの実況中継をして質問に答えた。
成果と課題	オンラインでイベントをすることで、新型コロナウイルス感染症で公民館が休館になっても講座 を開催することができ、生涯学習の機会をつくることができた。また、入院中のかたや小さいお 子さんがあるかたも参加できたと同時に、日本全国からとカナダやハワイ、シドニーなどからの 参加者もあり、多様な方々の交流の場を作ることができた。今回は個人の端末や、講師の先生の zoomのアカウントを利用して講座を開催したが、端末やアカウントなどのオンラインの会議をす るためのハード面の整備が必要だと感じる。学校でのニーズもあり、教室を繋いだイベントの開 催にも必須であった。またオンラインでイベントをする場合は、公民館合同での開催とするなど の工夫をすると、宣伝や運営なども余裕があつてメリットが多いと感じた。

[illegible]

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 河内公民館 >

日時	①令和3年(2021年)9月～10月 ②令和3年11月16日(火)～令和4年1月11日(火) ※応募者にリンク先を伝えて、期間内はいつでも見られるようにした
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	youtube講座を視聴可能な場所ならどこでも
内容	①講座名:「夏休み自由研究～河内にある放牛地蔵を探そう～」 講師:熊本市博物館職員 本来は集合開催の予定(現地見学をして学んだこと等をまとめる)だったが、新型コロナウイルス感染症のため貸館休止になり、実施することができなくなったため、急遽動画を作成して講座申込者へ期間限定の配信をすることにした。最初に絵本「放牛さんとへぶり地蔵」の読み聞かせ、そして放牛和尚が地蔵を作るようになったわけ、拓本の作り方、河内にある放牛地蔵の紹介という流れで11分程度の動画を作成した。 ②「作ってみよう!みかん大福」 講師:河内公民館職員 みかん大福の作り方と河内みかんの紹介を5分程度の動画にまとめた。
成果と課題	・「放牛地蔵」はパワーポイントで、「みかん大福」は生涯学習課から購入していただいたビデオの専用ソフトで作成した。 ・独自性が出るように河内の紹介を入れた。(1月に「簡単海苔巻き」の動画配信をするが、河内の海苔と海苔ができるまでについても入れていく予定) ・次の講座ではビデオの撮り方を工夫したい。 ・慣れていないこと、写真を複数枚使用したことで編集にとっても時間がかかった。 ・「放牛地蔵」は集合講座に申し込んだ子どもたちに配信した。「みかん大福」は市政だよりとかわちだよりで広報したが、知り合い以外の申込者はいなかった。数々の動画を簡単に見ることができる現在の状況で「ぜひ見たい」と思ってもらえる動画を作るためにどのような内容でどのように見せ、広報をしていくとよいのかをしっかりと考える必要があると思う。



【重点事業(4)】 新しい生活様式に適應した事業の展開

< 飽田公民館 >

日時	令和3年(2021年) 9月18日(土) 午前11時～正午
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施 ☐ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	飽田公民館 ホール
内容	コロナ禍にあって、家庭に居てスマートホンやタブレット端末を使ってZoomアプリを利用した「Zoomおはなし会」を実施した。公民館講座にリモートで参加いただき、親子でお話を聞き楽しむ機会となることをねらった。 配信内容は、童話の読み聞かせ4話・手遊び歌1曲・パネルシアター1話であった。今回の配信は、飽田地域の読み聞かせボランティア「ハイジの会」の皆さんに依頼し、題材の選択から準備・配信までをお願いした。
成果と課題	直接公民館に集っておはなし会を開くことが敬遠される中で、話と絵を画面から見ることで、子ども達の興味が画面に向いていたように思われる。配信側の画像にも子どもたちの様子が見えるので、相互に繋がっているような感覚が持て、子どもたちの笑顔に成果を感じることができた。 課題としては、施設内のWi-Fi環境の弱さや使用時間の制限、アカウント取得の制限や機材の不足などがあり、配信に向けての環境整備が必要である。また、著作権の問題もあり、事前の著作権使用許諾を得ての配信となるので、事前準備が必要である。



【重点事業(4)】 新しい生活様式に適應した事業の展開

< 富合公民館 >

日時	令和3/4年(2021-22年) 11月30日～12月31日 全日
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	YouTube上
内容	第4グループ制作のYouTube動画「熊本の郷土料理を作ってみた ～いきなり団子編～」を視聴権限を公民館だより、電子申請サービスに記載し、募集した。動画の内容はいきなり団子のレシピとその制作の様子をテロップなどを入れたものである。製作には5館の社教主事が中央公民館にあつまり、いきなり団子の材料調達、撮影機材調達、撮影計画、撮影、出演、編集を行った。
成果と課題	富合公民館では、2名の応募があった。広報はホームページ、公民館だよりで行い、市政だよりには載せていない。市政だよりに載せると応募は多くなるのではないかと思う。応募はデジタル機器の扱いになれている世代の予想を立てていたが、2名の方とも高齢者の方であったことである。現役世代がなかった理由としてはYouTube動画は巷にあふれかえっており、コンテンツ自体に興味が少ないのではないかと感じている。高齢者の方の応募があった理由としては、公民館から発出している動画であること、公民館を一つのブランドとして考えると定期的に公共的なコンテンツを提供している点で信頼度があったのではないかと。また、YouTube動画に高齢者向けのものはあまり無いようなので、高齢者の興味を引いたのではないかと考えた。広報してすぐは応募もあったが、今はなくなっているので、定期的に動画を上げていくと、過去のアーカイブとして旧作も視聴されるのではないかと思う。
 	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

<城南公民館>

日時	令和3年11月30日～12月23日 午前10時～正午
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたＩＣＴ講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	城南公民館 学習室ほか
内容	1歳未満の乳児の母親（妊婦を含む）を対象とし、子どもの手作りおもちゃを制作する「ママと赤ちゃんの手づくりソーイング」を実施した（1歳未満の子どもも一緒に参加・児童民生委員による見守り有）。3日間でフェルトのおもちゃ（飾り）を作る講座であったが、講師の都合により3回目を集合で実施することができなくなったため、最終回のみInstagramを利用し、講師からライブ配信することで講座を実施した。配信では講師が参加者の目線になるようにカメラを配置し、チャットでの参加者からの意見・質問に応えながら講座を行った。（通常9人参加・ライブ配信4人参加・後日視聴5人）
成果と課題	○中止せざるを得ない状況であったが、配信することにより講師も移動することなく講座を実施でき、講座生も最後まで受講できた。カメラの画角を講座生と同じにすることで説明もわかりやすくなった。アーカイブ保存を活用し、当日ライブ配信を視聴できなくても、一定期間は視聴できたため全員が参加できた。 ●今回は講師の端末・アカウントでの配信であったが、公民館でも機器等の環境が整えば恒常的に利用できると思われる。今回使用のSNSを利用している方にはとても有効だが、なじみのない方（特に高齢者）は利用方法から視聴までハードルは高い。



【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 清水公民館① >

日時	令和3年(2021年) 10月中旬～ 令和4年(2022年) 1月4日(火) ※応募した時点で動画リンク先を伝えて、いつでも見られるように設定
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	youtube講座視聴・料理可能な場所ならどこでも
内容	今回、公民館オンライン講座(動画配信)の実施にあたり、第4研究グループでは、Zoom放送用の機器がまだ届いていないため、昨年配付された動画撮影用カメラ・編集ソフトを活用してyoutubeでオンライン講座ができるように計画・作成した。 題材は、①熊本の魅力・文化・学びを他地域に広げる、②みなさんが興味をもちやすいように有名な郷土菓子作りに取り組む、③他の館でもこの動画に続いて企画・撮影しやすいようにナンバリングをし、「熊本をもっと知ろう 郷土菓子を作ろう① いきなり団子編」として、動画を完成させた。最初の提案動画なので、どの館でも作れて、継続して活動できるようにシンプルにし、また視聴者もとても見やすいように再生時間をできるだけ短くし、今後伸びしろがあり、他館のアイディアや個性も入れやすいように意識して完成させた。
成果と課題	○他館が参考にできるように先駆けて、簡単で、後が続きやすいように動画を企画・作成し、提案した。またYoutubeオンライン講座を実施することで、コロナ禍でも、いつでも、気軽に、安全に、家でも学べる講座を開始できた。 ○みなさんが見たいと思うよう、熊本をもっと知ってもらえるような動画作りのきっかけとして、有名な郷土菓子クッキング動画を最初に企画した。 ○5人で撮影、編集することで、それぞれの視点の意見を取り入れ、再度撮影、修正した。 △被写体・撮影・編集と最低でも2人は必要で、少人数では動画の質、量が限られる。 △動画を繋げたり、切ったりしても前後にずれが出ないように編集するのは難しい。 △各館で個性や地元のよさを出して熊本の魅力を広げる動画をアップできるようにもっと早く提案、支援を行えたらよかった。
 ①綿密な計画・打ち合わせ  ②手元を中心にした撮影  ③見栄えを意識して撮影	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 清水公民館② >

日時	令和3年(2021年) 11月7日 (日) 午前10時~11時半
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	ホール・動画視聴可能な場所
内容	現在コロナ禍で、せっかく計画した講演が中止になることがある。特に急だと、依頼を受けて準備していただいた講師の方、応募していただいた方が意気消沈されることになる。そこで清水公民館では従来の講演に加えて、Liveで動画配信も同時に行った。機器が苦手な方も従来の方法なら参加できる。中止時には、動画配信で参加することができ、家で家事等をしながらも講演に参加できるからだ。だれ一人取り残さないように、従来の講演+ライブ動画配信のハイブリッドシステムで実施した。 元々職員数が少なく、ぎりぎりまで運営している。それにLiveで動画配信となると、職員も一人数役こなし、何より機器の操作に強くなしないと実施ができない。今回託麻公民館との連携することで、人員確保、機器操作等、協力して実施できた。
成果と課題	○Live動画配信により、講師の方、動画視聴できる方にとっては、急な中止時でも公演開催、参加できるようになった。 ○家で用事がある方、また家でたまたま時間のある方もLive動画配信には参加できる。 ○Live動画配信なので、初の外国の方の参加があった。 ○他館との連携で、職員数が増えるだけでなく、適材適所に人員を配置でき、スムーズに講座を行うことができた。 △動画配信するための機器、アプリケーションの使用法を熟知しないと、自館や参加者の機器トラブル時に対応ができない。 △職員数が少なく、公民館単体で実施するなら、一人数役こなさないといけない。 △Live動画配信だと、講師も見えない参加者、コメントにも同時対応する力量が必要。



①心温まる読み聞かせ



②Live動画配信も実施



③従来の講演も併せて実施

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 北部公民館 >

日時	令和3年(2021年) 10月15日～12月24日 毎週金曜日 全12回 午前10時～11時
取組の重点	☒ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施
	☐ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	熊本市北部公民館をメイン会場として 菊南病院、鶴団地公民館、北部東コミュニティーセンターをZoomで発信
内容	熊本市高齢者支援センターささえりあ北部との共催して北部地域在住の「65歳以上の方々と3か月間、全12回の「健活教室」を開催した。 コロナ禍ということで、北部公民館をメイン会場としたが、人数制限があり15人しか受け入れができないこともあり、鶴団地公民館(ポケットWi-Fiレンタル)と北部東コミュニティーセンター(FreeWi-Fi設置あり)をZoomで繋ぐことにより、2会場合わせて50人余りの方々と可能とした。 また、菊南病院やすまいる縁寿の先生ともZoomで繋ぎ、健康体操の講師の先生が、北部公民館に来館できない場合、菊南病院やすまいる縁寿からZoom発信をしていただいた。 菊南病院の先生やすまいる縁寿の先生の健康体操だけでなく、北区の保健師や歯科衛生士の先生の講話等を聞くことができとても有意義な内容であった。 3会場とも、欠席者が少なく、参加者ほぼ全員が、3か月、全12回の「健活教室」を終了することができた。
成果と課題	○参加者ほぼ全員が、3か月、全12回の「健活教室」を終了することができ、どの参加者も健康体操を始めた当初に比べ、終了時にはスムーズにやることができるようになった。 ○ZOOM発信により、メイン会場の北部公民館に来館しなくても、他の会場から「健活洋室」に参加できることで、参加者のニーズに合わせて実施することができた。 △ZOOMの接続がうまくいかないことがあり、音声聞こえなくなったり、動画が止まったりとZOOMの接続環境の整備を進めたい。



北区の保健師さんからの話



すまいる縁寿の先生健康体操



菊南病院からZoomの健康体操

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 五福公民館 >

日時	令和3年(2021年)5月～12月
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施 ☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	五福公民館 各種会議室
内容	令和2年度に行った初級LINE講座の講師との継続した連携により、受講者の段階に合わせたICT講座を行うこととなった。スマホ基礎講座(Android、iPhone)、初級LINE講座、Zoom講座と時勢に合わせた3つの講座を昼の時間と夜の時間で合わせて8講座設定した。 基礎講座では、スマホの触り方から、丁寧に教える内容となった。運動会前のため、お孫さんを写真で写そう！！が目標となった。 LINE講座では、友だちとのつながり方やスタンプの入手方法、既読が付く仕組み等の基本的な知識と操作の仕方を学んだ。熊本市とも友だちになっていただき、市からの情報にアクセスするのが容易となっていた。 Zoom講座では、Zoomとは何？という方から、Zoomを使って発信をしたい！！という方まで、幅広い目的の方が参加し、基礎的な知識と実践編として、実際にZoomで参加者をつなげて操作を学習していた。
成果と課題	○講師の軽快で熊本弁を交えた話し方も受講者への安心感とつながり、よい人間関係の上で講座を展開していただくことができた。垣根が取り払われることで、参加者も気軽に尋ねることができ、分からないことを理解することで、満足度が高まっていた。 ○操作したらどうなるのかが想像できずに、スマホの操作ができずにいた受講者が多数おられた。講座での丁寧な説明により、どのアイコンが何を表しているのかが読み取れるようになり、そこからの理解が加速して、楽しい道具としてスマホやアプリを扱うことができるようになった。 ○熊本市のLINEに登録した方々も、公民館講座へのアクセスが簡単にできることも分かり、リピーターを増やすことにもつながっていた。 ○新型コロナウイルスの影響があり、延期が数回続き、当選されたことを忘れていた方が続出した。事前に電話して声をかけて受講につなげることができたが、今後の課題である。
 	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 東部公民館 >

日時	令和3年(2021年) 11月16日(火) 11月25日(木) 11月29日(月) 午前10時～12時
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施 ☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	画図コミュニティセンター(会議室)
内容	コロナ禍において、地域の民生委員の会議等ができないという相談がまちづくり班に寄せられた。そこでまちづくり担当職員からおでかけ公民館講座を利用して、リモート会議に挑戦してみないかとの提案をしたところ、画図校区民児協役員から「ぜひお願いしたい」との依頼があった。そこで、アビリティスクールマリオネットさんに協力をしていただき、おでかけ公民館講座「ZOOM講座」が開催される運びとなった。 オンライン会議アプリ「ZOOM」の基礎的・基本的な知識・技能を学ぶことを通して、コミュニケーション・ツールを活用した生活様式につなげることを目標とした。Wi-fiやインターネットへの接続方法やホストとして、会議を運営するまでの過程を全3回講座で実施した。
成果と課題	○参加者からは新しいことと学ぶことに対して、「難しいのではないだろうか」と不安の声が上がったが、講師の先生やアシスタントの先生のサポートのおかげでスムーズに操作をすることができ、会を増すごとに、参加者の手際が良くなり、理解も深まっていた。 ○7名という人数だったため、講師の手も行き届いていた。また短期間に講座が凝縮されていたため、前回の記憶も想起しやすく、3回目には全員がホストを経験することができた。講座後は「楽しかった。すぐに忘れるかもしれないので、またやってほしい」との声が聞かれた。 △実施後、自分たちでZOOM会議をしようとしたところ、うまくいかなかったため、まちづくり班に、質問にいられていた。すべてに役員が自分の力だけでできるようになるためには、もう少し練習する必要があるように感じた。



【重点事業(4)】 新しい生活様式に適應した事業の展開

< 秋津公民館 >

日時	令和3年(2021年) 10月中旬～3月
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施 ☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	秋津公民館 会議室
内容	LINEをされていない方や使い方に不安な初心者の方向けに、アプリのインストール・基本的な設定・トークの仕方・熊本市公式アカウントの登録の補助をう。QRコードは、情報の提供やインターネットへの簡単なアクセス手段として身近なところでよく見かけ普及していることを知り、読み取り方を身につける。（講師：◆公民館職員 ◇外部依頼） ◆4月21日 超初心者向けLINEの始め方（参加者7人） ◆5月14日 超初心者向け「QRコード」の使い方（公民館休止中のため未実施） ◆7月9日 超初心者向け「QRコード」の使い方（参加者8人） ◆7月20日 超初心者向け「QRコード」の使い方（参加者7人） ◆8月31日 超初心者向けLINEの始め方（公民館休止中のため未実施） ◆2月15日（予定）超初心者向けLINEの始め方・「QRコード」の使い方 ◇3月2日・3日（予定）超初心者向け スマホの基本 ※「QRコード」は(株)デンソーウェーブの登録商標。
成果と課題	○少人数の参加者を対象に基本的な内容に特化し、全体説明と個別対応を3人の職員（社会教育主事、社会教育指導員）で進めた。普段公民館を利用される参加者にとっては、身近な公民館職員が講師で質問しやすかったようで、「わからないことは安心して聞いてよい」という会場の雰囲気につながった。このような講座を増やし多くの方に気軽に参加していただく機会を設けることの有効性を感じた。 ○QRコードの活用については、特別なアプリをインストールせず、既にあるアプリ（LINE、Googleレンズ）の活用の仕方を取り上げ、実際にチラシや公民館ロビー掲示板の印刷物にあるQRコードを読み取って練習した。 ※新型コロナウイルスのワクチン接種は終わられている方がほとんどだったので、QRコードを読み取りマイページへアクセスする方法などについても必要に応じて対応した。 △端末の機種やOS、OSのバージョンの違いにより操作方法が異なり、専門的な指導者ではなく自身の経験と知識による公民館職員講師では基本的なことは対応できても派生する個別のことへは対応できないこともあった。

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適應した事業の展開

< 西部公民館 >

日時	令和3年(2021年) 10月14日、21日、28日 (木) 午前10時～正午
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施
	☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	西部公民館 A会議室
内容	今年度すでにLINE講座を開催していたが、西部公民館エリアで考えると、ICTのリテラシーが高いとは言えない出来事があった。それはワクチン接種予約の際に高齢者のサポートセンターへの来場がとて多かったことである。中にはスマートフォンを持っているにもかかわらず、職員に入力してもらわなければ予約も取れない高齢者が多数いた。そのため、実際にスマートフォンを持っている方に対して、十分に自信をもって扱っていただけるように「学ぼうスマホ・タブレット」という講座を行った。高齢者の方が参加しやすい平日午前中に設定し、講座回数も週に1回計3回の講座とした。これは毎週復習もしながら、しっかりと習得してもらうためにも重要だと考えたものである。
成果と課題	○講師にはアビリティースクール マリオネットよりアシスタントも含めて2人を招聘したが、想定以上に操作に戸惑う参加者が多く、指導が難しかったようだった。 ○10月実施となったが、新型コロナ感染症の影響が少なく参加希望者が想定を超える数だった(定員12人に対して16人の申込みだったが、講師にお願いして全員に参加していただいた) ○LINE講座も含めて、まちづくりセンターの地域担当者とも連携しながら計画しているが、もっと有効に生かしていけるように工夫したい。
	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適應した事業の展開

< 花園公民館 >

日時	令和3年(2021年)10月28日、11月25日、12月23日、1月20日、2月24日、3月24日 毎月第4木曜 午前10時～正午
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施 ☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	ホール、ロビーで感染症対策に配慮した上で実施
内容	スマートフォンの使い方がわからないで困っている人を対象に実施している。Wi-Fiの使い方、検索の仕方、グーグルマップの基本的な使い方、カメラの起動と操作を学習する。 講師と受講者が対話しながら一緒に操作して使い方を学ぶようにしている。 ・検索のコツ（and検索、or検索、画像検索、「とは」他）のプリントを用意した。 ※このプリントは公民館で誰もが手に取れるようにロビーに置いている。 ・カメラでQRコードを撮影して、サイトを表示する方法を一緒に学んで、館内掲示のQRコードで試した。 ※学びの種をまくことを念頭に置いて、防災情報や人権に関するものも取り込むようにした。
成果と課題	○対話によって、高齢者は生き生きと活動ができて楽しそうな様子だった。 ○体験しながら学ぶことで、使い方も覚えることができていたようだった。 ○受講者同士で学びあいの様子が見られた。友人に使い方を伝える等、つながりを広げる一助となる可能性を感じた。 △最近スマートフォンを使うようになった高齢者も多く、デジタルディバイドの解消にはまだまだ到達できない現状がある。地道な取り組みが必要。 △講師の確保の課題。今後、大学生や高校生を講師として世代間の交流を図る仕組みを取り入れていきたいが、コロナ禍での実施へは細心の注意と配慮が必要となる。
 教えあう参加者の様子  感染対策を配慮した会場作り	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 天明公民館 >

日時	令和3年(2021年) 11月30日～12月3日
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施 ☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	天明公民館 会議室
内容	コロナ禍のこのご時世、対面での活動ができず、インターネットを介した様々な情報収集がさらに必要となってきた。そんな中、Youtube等の動画配信アプリの普及により、動画での情報収集できる環境がこれまで以上に多くなってきた。天明管内にお住いの高齢者にも、自宅でパソコンをインターネットにつないだり、スマートフォンを所持する方が増えてきており、様々な動画を見る事を通して大切な情報を取り入れてもらいたいと思い、初心者向けで「パソコン&インターネット講座」を実施した。内容は、パソコンの起動からインターネットへの接続の方法、更に、様々な動画配信をどのようなアプリから見る事ができるのかといったことまで講義をし、1人暮らしの高齢者の方でも、いつでもインターネット上の動画情報に触れる事ができるようになる初心者向けの講座とした。
成果と課題	受講者のほとんどが高齢者で、Youtubeなどインターネット上の様々な動画サイトに接続することもままならない方々ばかりだったので、基本的なところから丁寧に講習したことでとても喜ばれた。ワードやエクセルなどの講習はよくあるが、インターネットにつなぐ事など、パソコンの基本的な操作から教えてくれる学習機会にこれまで巡り合うことがなかったとのことで、誰にも教えてもらう事がなかったから、今回の講座はとても学習になったと感想をいただいた。身の回りにパソコンやスマホが以前より手軽に手に入れられる昨今となっており、高齢者の方々も若い方がスムーズに使うのと同じように扱えるようになりたいという要求をお持ちで、その願いをかなえる事が出来、とても満足された方が多かった。
	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 龍田公民館 >

日時	令和3年(2021年) 12月15日(水)・16日(木)・17日(金) 午後1時30分～3時30分
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座(動画配信)の実施
	☒ デジタルディバイド対策を含めたICT講座の実施
	☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	龍田公民館 会議室
内容	パソコンをはじめて使用する初心者を対象に、パソコンの起動から基本的なワードの文書作成までを3回の講座で扱った。ワクチンの予約など、パソコンを利用する場面が増えたためにパソコンを学びたい、という声があった。昨年実施した反省を踏まえ、個別に対応する必要があることを考慮して、講座生6人の講座を計画した。講師の先生は自作のテキストをもとに、スクリーンにPCの画面を投影しながらわかりやすく説明された。質問があると即座に対応され、全員が同じペースで進めることができた。
成果と課題	参加者は、3日間連続の講座だったこともあり、講座生どうしが仲良くなり「お互いに教えあう」場面もみられたほどだった。その結果、学習の効果は高く、参加者全員が最後まで学習についていくことができた。パソコンの講座は今まで、「講師が多くの質問にあって、進度が遅くなってしまう」という難点があったが、今回、少人数で実施したことで解消できた。「教えられる側」から「教える側」になることは、小さいけれども学びの循環になり、だれかに喜ばれるという達成感を得ることができる。この視点で講座を企画していくことはとても有意義だと感じた。 課題としては、募集人数が多く倍率2倍程度の抽選になってしまった。少人数にした影響と思われる。講座の回数を増やすなどして、ニーズに応える必要を感じた。
熱心に講座を受けている様子	

【重点事業(4)】 新しい生活様式に適応した事業の展開

< 清水公民館③ >

日時	令和3年(2021年) 11月16日・17日・18日、12月21日・22日・23日 午後1時半～3時半
取組の重点	☐ 公民館オンライン講座（動画配信）の実施 ☒ デジタルディバイド対策を含めたＩＣＴ講座の実施 ☐ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施
場所	清水公民館 第1研修室
内容	今年度、清水まちづくりセンターではワクチン申込のサポートを実施した。早朝から高齢者の方が200人以上並ばれた。しかし、施設の広さ、対応できる職員数、一人当たりの登録時間等あり、200人以下の方の申込しかできなかった。ニュースでも電話が繋がらない、スマートフォンでの申込は難しくてできないという多くの高齢者の方の声を聞いていた。 そこで清水公民館では、高齢者の方対象のスマートフォン講座を計画したが、当初予定していた9月が貸館休止で中止になった。しかし、応募者も多かったことを受け、11月・12月に全員が受けられるように日程を組み直した。 今回の出来事で、応募者のスマートフォンへの関心も高く、基本操作から地図検索アプリの使い方、写真と動画撮影方法、アプリケーションのインストール方法を学ばれていた。
成果と課題	○スマートフォン申込ができなくて困っているというニーズを受けて企画したら、定員の2倍近い応募があったがコロナ禍で中止となった。しかし応募者の思いにこたえるため、後日講座の実施回数を増やすことで、みなさんが受講できるように実施することができた。 ○関心・意欲が高く、講義の内容を聞きながら実践し、操作方法を学ばれていた。 ○記録・様子を確認しに来た私にも質問をしながら、分からないことを解決されていた。 ○民間企業に講師を依頼し、高齢者の方向けに機種や設定ごとに対応された丁寧な指導で、みなさん満足して帰られた。 △コロナ禍で講座の人気も出たが、中止にもなった。 △今回はニーズに合った企画のため、応募数が多かったが、期日など応募者の都合もあり、タイミング等が重要。常に情報収集し、ニーズに合った企画が必要である。



①実際に操作をしながら受講



②撮った写真確認中



③テキストでも確認